

1. 都市経済・社会をめぐる「10の潮流」

1. 都市経済・社会をめぐる「10の潮流」

高度経済成長期以降大きく発展した我が国の都市は、平成の30年あまりを経て、**令和**という新しい時代を迎えた。この間、経済・社会情勢は大きく変化し、まちづくりに求められる役割も大きく変化している。

都市をめぐる状況は**多様性**、**不確実性**を増し、このような時代に確実なことを予測するのは難しいが、確実なこと以外何も言えないわけではない。本懇談会のチャレンジは、世の中の動きから感じられるキーワードを元に、新しい時代の都市が目指す姿の検討を試みることである。

懇談会では、都市政策に係る専門家に加え、他分野の専門家との幅広い議論を通じて、今後、人口減少を迎える各都市が生き生きとした持続的な成長を実現していくに当たり、特に重要性を増すと思われる事象・要素を「**10の潮流**」として整理した。

1. 都市経済・社会をめぐる「10の潮流」

- 潮流 (1) 生産年齢人口の減少
- 潮流 (2) 知識集約型経済の拡大
- 潮流 (3) 都市間競争の加速
- 潮流 (4) 働き手・働き方の多様化
- 潮流 (5) ソーシャルキャピタルの低下

- 潮流 (6) 「多様性」と「新結合」
- 潮流 (7) 「対面」と「偶然の出会い」
- 潮流 (8) 「共感」と「育成」
- 潮流 (9) 「居心地」と「つながり」
- 潮流 (10) 「新技術」と「新制度」

(Intentionally blank)

潮流（1）生産年齢人口の減少

人口減少や少子高齢化は、大都市と地方都市で進展の時期に差はあるものの、**ほぼ全ての都市が共通して抱える課題**である。

人口減少は消費（需要）の縮小を、**生産年齢人口の減少**は人手・雇用（供給）の不足を呼び、縮小均衡や悪循環が見込まれる経済では、投資を呼び込むことが一段と難しくなる。

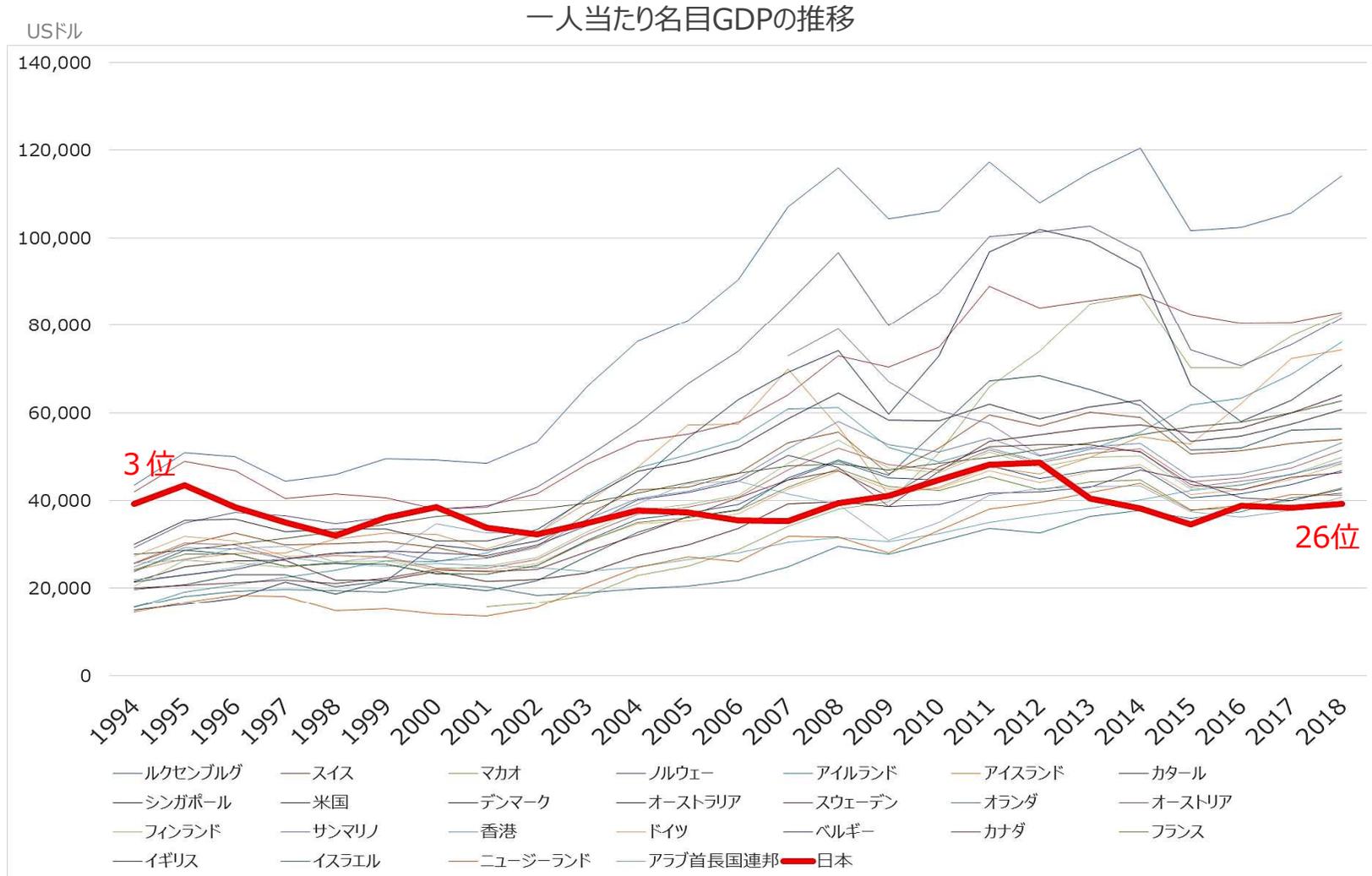
また、若年層の減少は、新しい世代の価値観や活力を吹き込む力の減少につながりかねず、世代を問わず一人一人がこれまで以上に輝くことができないと、我が国経済・社会の停滞を生む懸念もある。

さらに、東京など、現在は人口の増加局面にある都市においても、人口集積の勢いほどには経済成長できていないとの指摘もある。

潮流（１）生産年齢人口の減少

このような状況を踏まえれば、我が国全体の人口が減少する局面において、安定した経済成長や拡大を図るためには、現在の人口規模や人口増減の状況に関わらず、一人一人の付加価値をこれまで以上に増加させ、**経済・社会両面でのイノベーションの創出**を図ることが不可欠な状況にある。

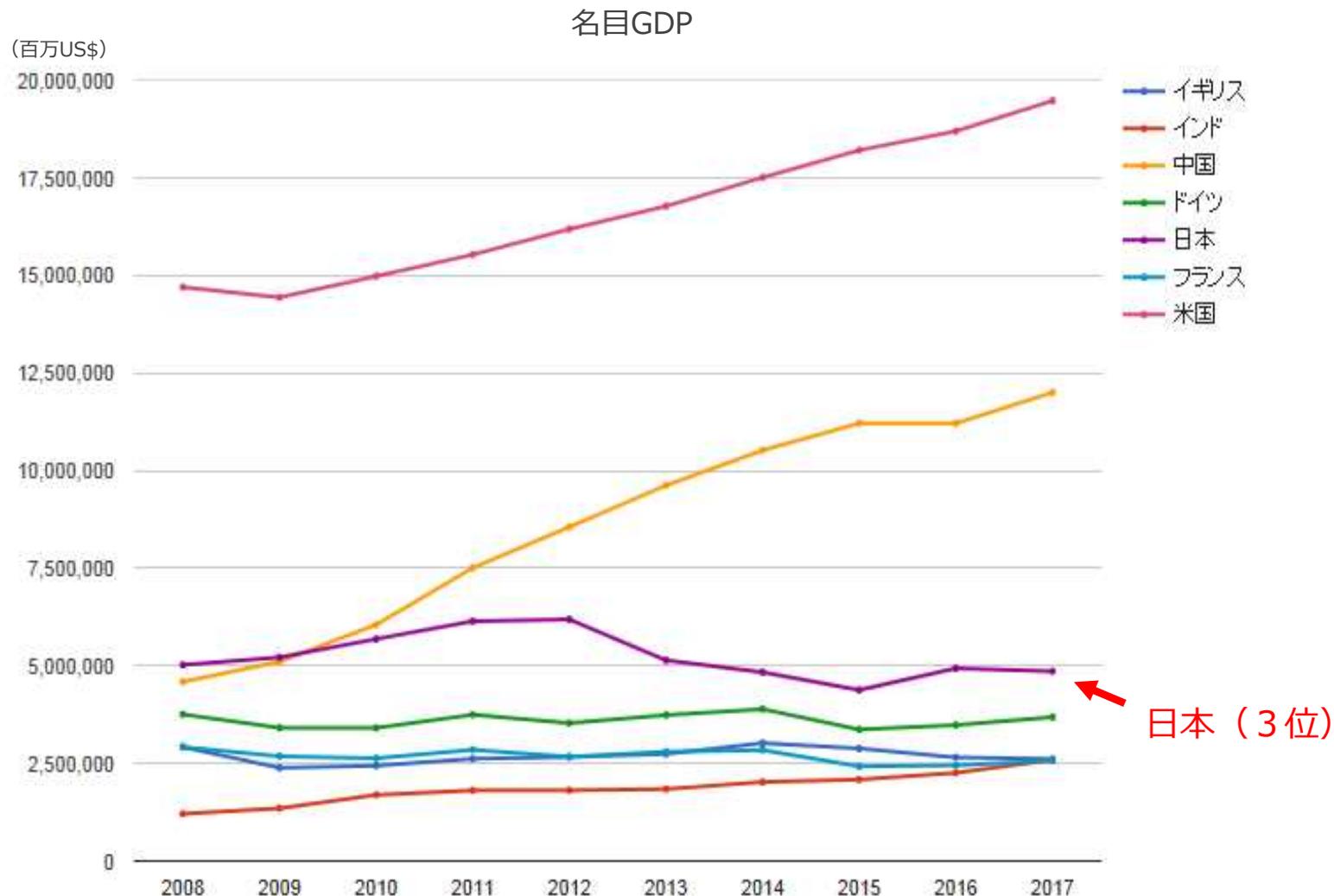
日本の一人当たりGDPはバブル崩壊直後から成長が見られず、 3位から26位（2018年）へと転落している。



(出典) IMF「世界の名目GDP国別ランキング・推移」に基づき国土交通省都市局作成

日本のGDPは3位（2017年）を維持しているものの、 1位2位との差は開き、4位以下には追い上げられている。

【資料：GLOBAL NOTE 出典：IMF】



(出典) IMF「世界の名目GDP国別ランキング・推移」に基づき国土交通省都市局作成

日本の人口は今後本格的な減少期を迎え、特に「若い世代」の減少が顕著である。

日本の年齢別人口推移

2015年→2030年の増加率[%]	
総数	-6.3
0～19歳	-17.0
20～39歳	-16.5
40～64歳	-6.6
65～74歳	-18.6
75～84歳	28.1
85～歳以上	68.1

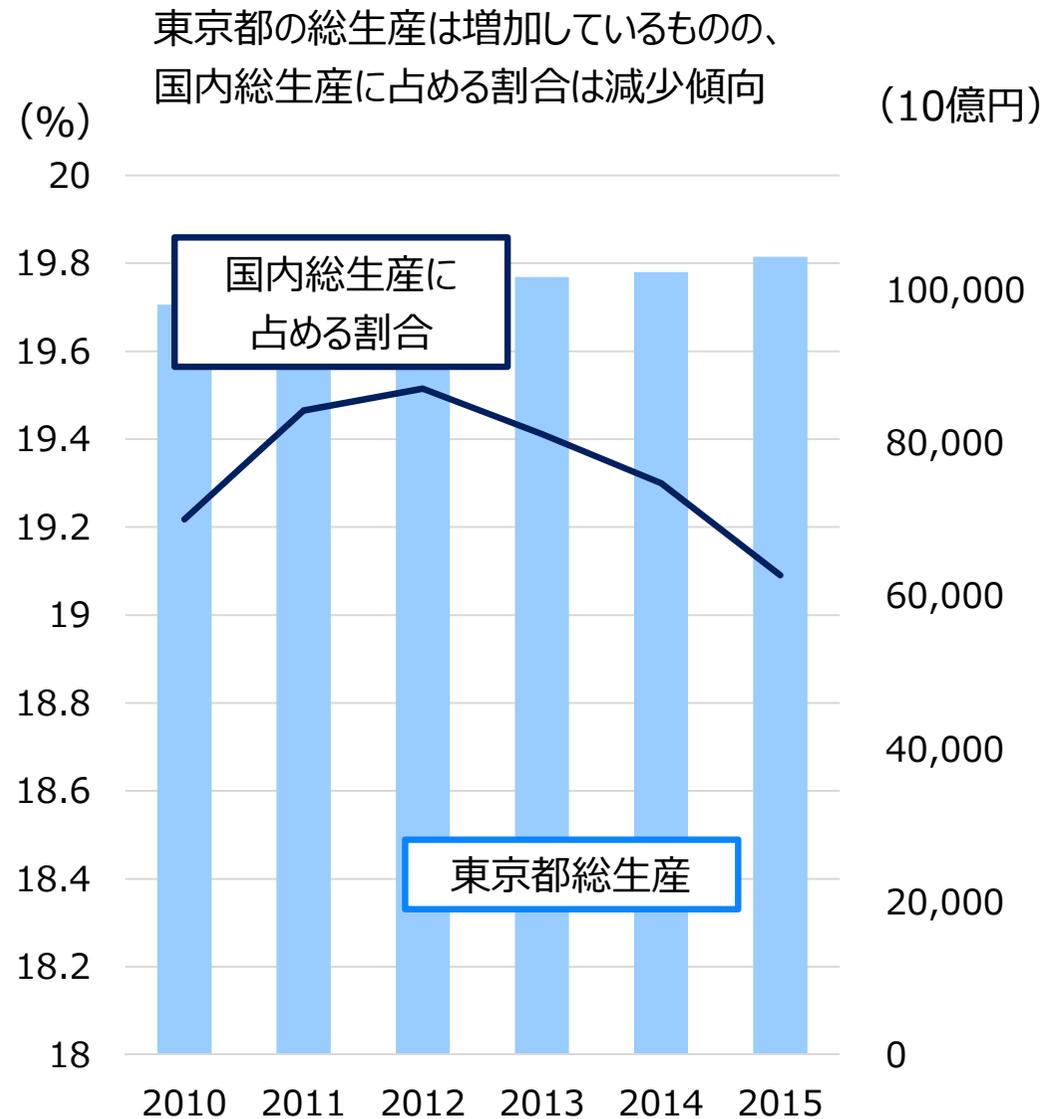
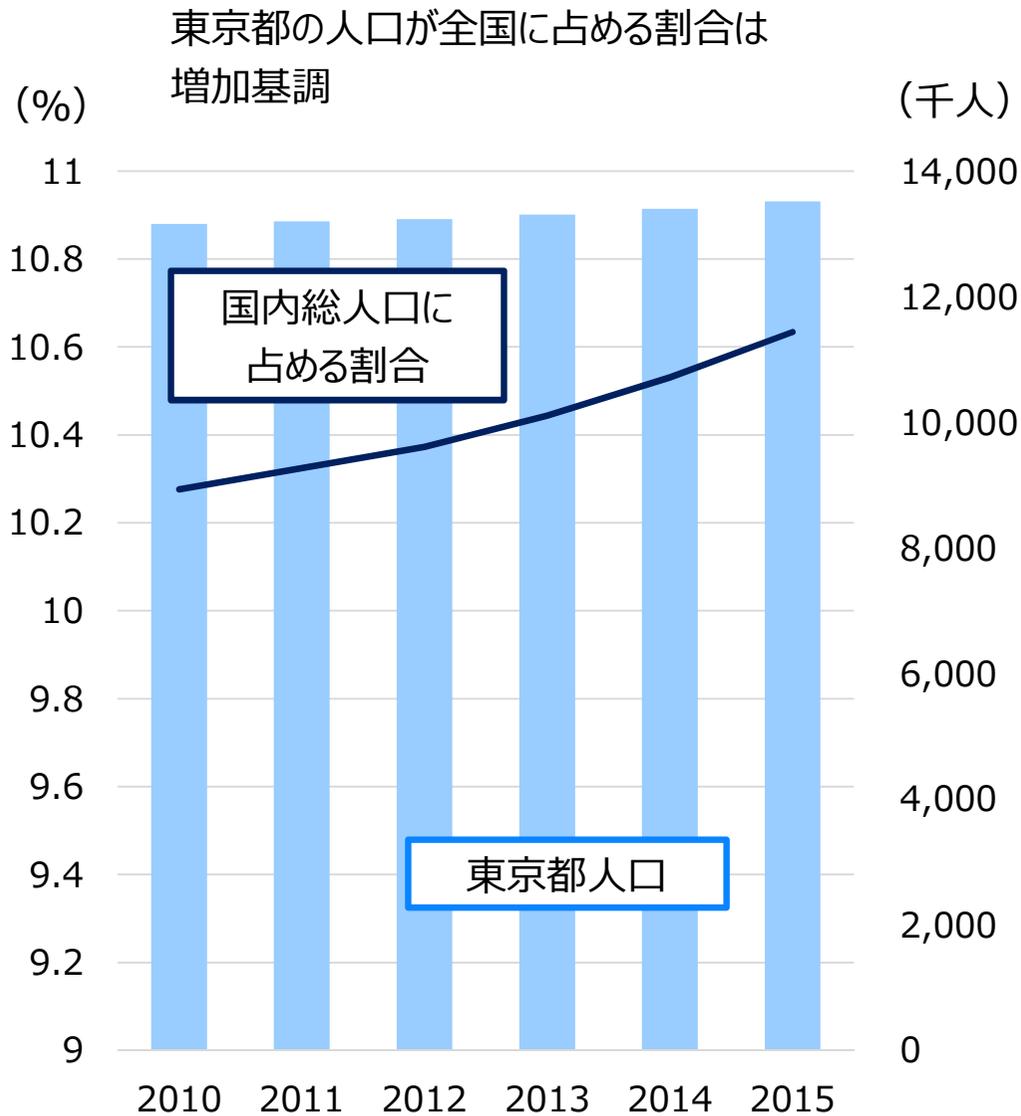
都市別 若者（20～39歳）の推計

	2015年[人]	2030年[人]	増加率[%]
(東京23区)	2,692,115	2,510,239	-6.8
大阪市	703,923	625,463	-11.1
名古屋市	578,118	520,619	-9.9
札幌市	467,507	375,840	-19.6
福岡市	426,679	390,633	-8.4
広島市	280,989	252,085	-10.3
仙台市	283,640	219,803	-22.5

都市別 高齢者（75歳以上）の推計

	2015年[人]	2030年[人]	増加率[%]
(東京23区)	981,029	1,281,793	30.7
大阪市	324,157	429,636	32.5
名古屋市	263,448	373,138	41.6
札幌市	226,695	391,789	72.8
福岡市	145,407	252,874	73.9
広島市	127,204	206,754	62.5
仙台市	115,023	196,270	70.6

近年、東京への人口集積が続いているが、
人口増加の勢いほど経済成長できていないとの指摘がある。



「国内経済のけん引役は製造業が多い地域」（大和総研・溝端幹雄主任研究員）
「東京は製造業の比重が小さく、非製造業の伸びも頭打ち。」
 この結果、相対的に東京の存在感も低下。」

県内人口の増加率 (2010→2015)			県内総生産（実質）の成長率 (2010→2015)			1人当たり県民所得の伸び率 (2010→2015)		
1	沖縄県	2.9%	1	宮城県	19.0%	1	宮城県	24.3%
2	東京都	2.7%	2	岩手県	14.0%	2	岩手県	20.0%
3	埼玉県	1.0%	3	愛知県	12.3%	3	愛知県	18.0%
4	愛知県	1.0%	4	沖縄県	11.0%	4	群馬県	15.4%
5	神奈川県	0.9%	5	群馬県	8.8%	5	高知県	13.8%
⋮			⋮			⋮		
			15	東京都	6.4%	33	東京都	6.5%
⋮			⋮			⋮		
	全国平均	△0.8%		全国平均	5.2%		全国平均	8.7%

(出典) 日本経済新聞 (2019.1.7 朝刊)、内閣府「県民経済計算」に基づき国土交通省都市局作成

(Intentionally blank)

潮流（２）知識集約型経済の拡大

世界的に、第二次産業から第三次産業への転換が進み、さらに近年では、第四次産業革命やSociety5.0が進展する中、我が国の各企業は、これまでに築いてきた産業基盤に立脚しながら、ICT等を活用したデジタル化、研究・開発や消費者ニーズへの対応等を急ぎ、それぞれの分野において**知識集約的な取組**を強化している。

また、こうした産業構造の転換に伴い、世界各国において、新鮮な価値観やアイデアに基づき新たな付加価値を既存事業に付加するいわゆる**「クリエイティブ人材」**の存在が重要視されてきている。

潮流（２）知識集約型経済の拡大

こうした中、我が国においても、大企業をはじめとする各企業が、自社内のみならず**社外の新たなアイデアや技術等**を求めて**オープンイノベーション**や**スタートアップ企業への投資（CVC投資）**を拡大し、そうした動きに呼応して、海外に比べ数は未だ少ないものの、我が国における**スタートアップ企業**も近年急速に勢いを増してきている。

また、多様なプレーヤーが有機的に結びつき、分業と協業でイノベーションを起こす**エコシステムの形成**がビジネス戦略として意識されるようになってきている。

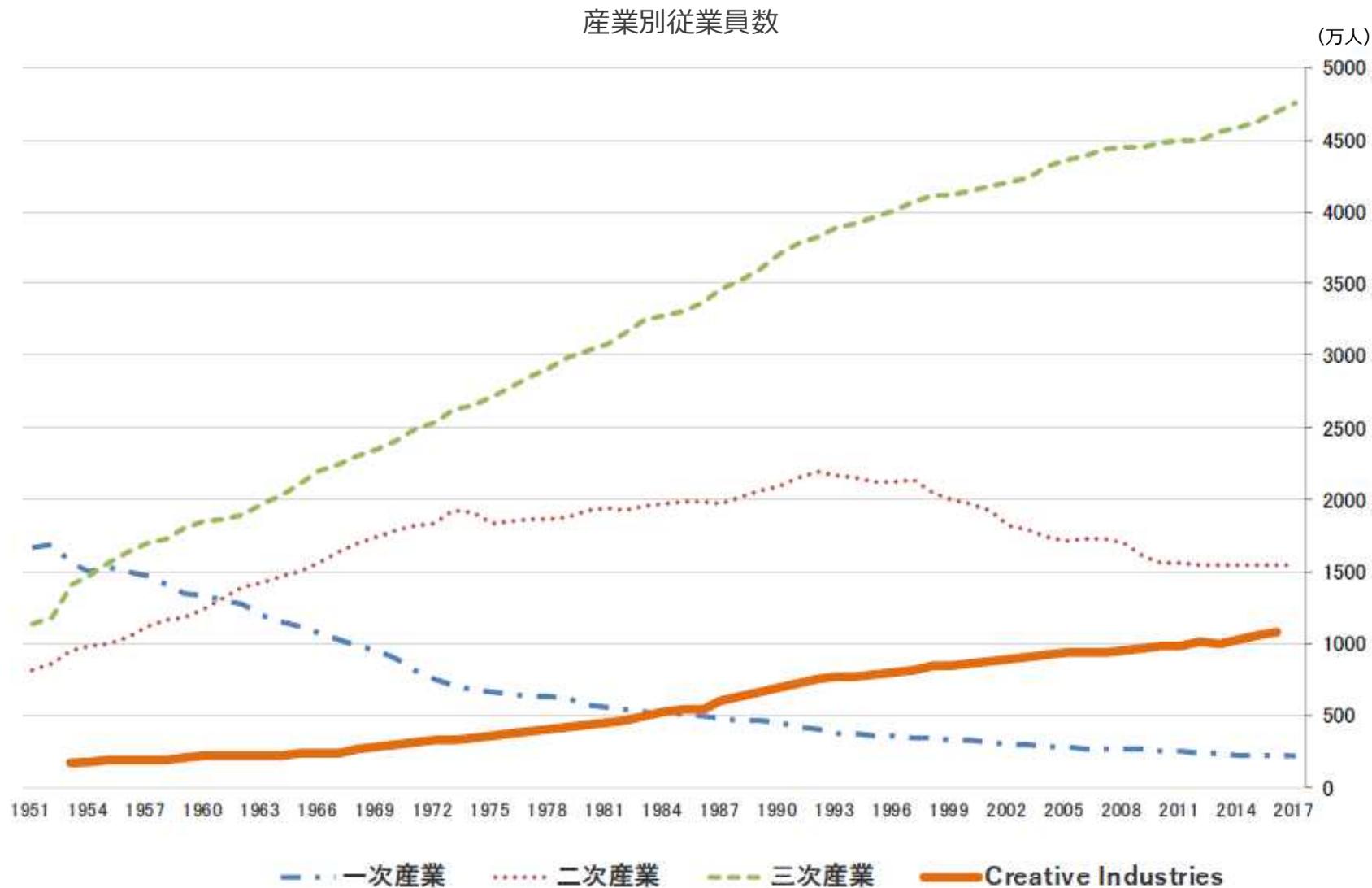
消費に目を向けても、高度経済成長期以降の物理的な「モノ」消費から、体験や経験に価値を見出す**「コト」消費指向**が強まりつつあり、平成30年に3,000万人を超え、地域経済の牽引役として急速に拡大している**訪日外国人**においても、同様の傾向が見られる。

潮流（２）知識集約型経済の拡大

我が国経済・社会が急速に知識集約化を進める中において、人々や企業など都市を舞台に活躍するプレイヤーの**行動様式**は大きく変化している。

都市がその国際競争力を強化し、成長・発展を続けるには、個人としての**「ひと」を惹きつけるための魅力・磁力の向上**がこれまで以上に問われる状況となっている。

日本の第三次産業の労働人口は、1990年代には4000万人を越え、クリエイティブ産業労働人口も1000万人を超えてきている（2017年）。

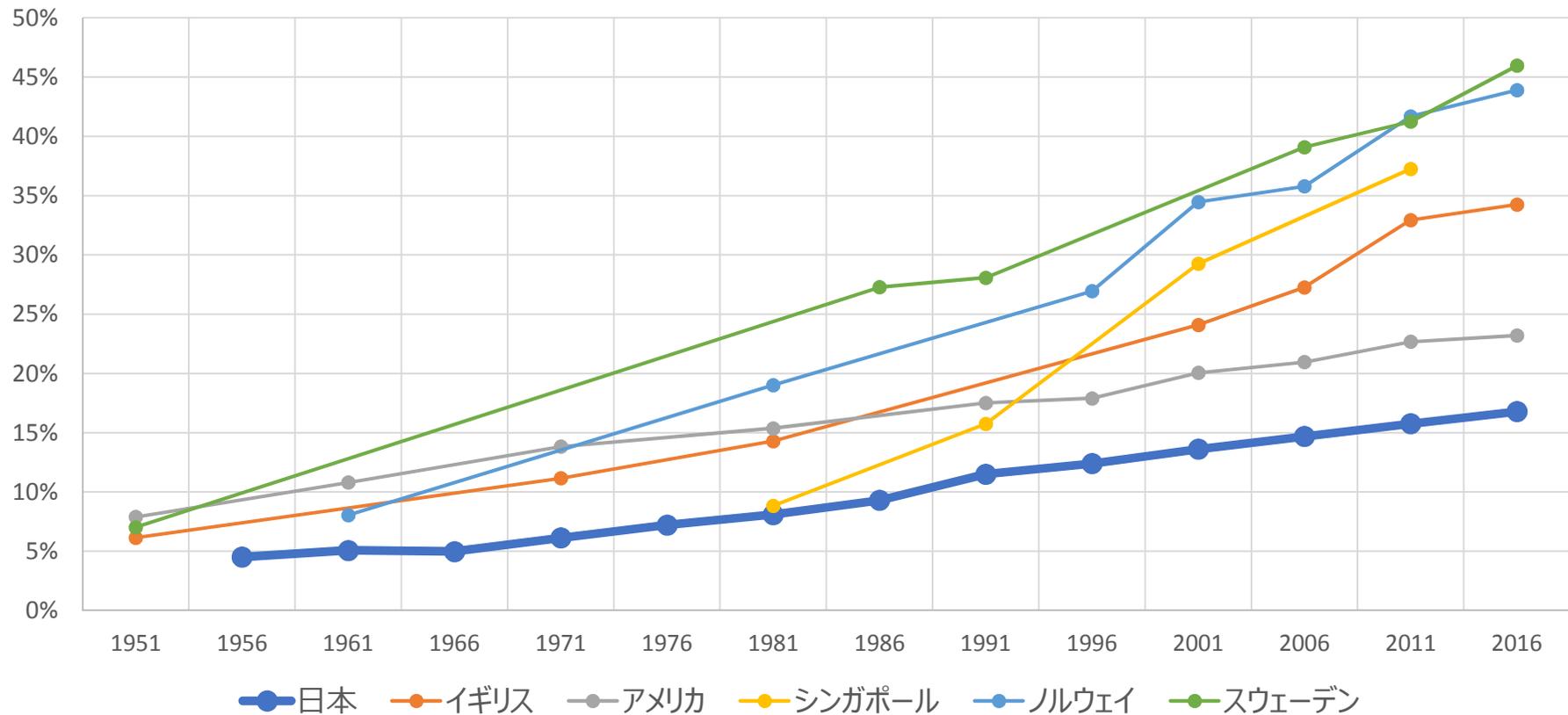


* Creative Industriesは三次産業の一部

(出典) QUOD提供資料に基づき国土交通省都市局作成

“クリエイティブ人材”が労働人口に占める割合は世界的に上昇。
 しかし、北欧諸国で5割近くになるなか、日本では2割に満たない。

専門職等※が労働人口に占める割合の推移



※専門職等：

アメリカ以外 研究者、技術者、医師、金融・法律家、教員、デザイナー、芸術家等（ISCO（国連統計課作成）に基づく分類）
 アメリカ NAICS（北米産業分類システム）に基づき、上記に沿った職業従事者数を調査

クリエイティブ産業は多種多様になってきており、
従来の様々な分野とつながる環境が重要視されている。

未来のクリエイティブクラスとは？



「2025年 稼げる新職業」 (日経ビジネス 2018/7/2)

1. ホワイトハッカー
2. 仮想空間創造師
3. 人口肉クリエイター
4. ドローン制御技師
5. データサイエンティスト
6. サイボーグ技術者
7. eスポーツプレイヤー
8. インセクトブリーダー
9. Vチューバー
10. オンライントレーダー
11. 書道家
12. IoT農家

19

出所: 日経ビジネスHP・記事(2018/7/2号)

クリエイティブシティの要件： 多様性とセレンディピティ

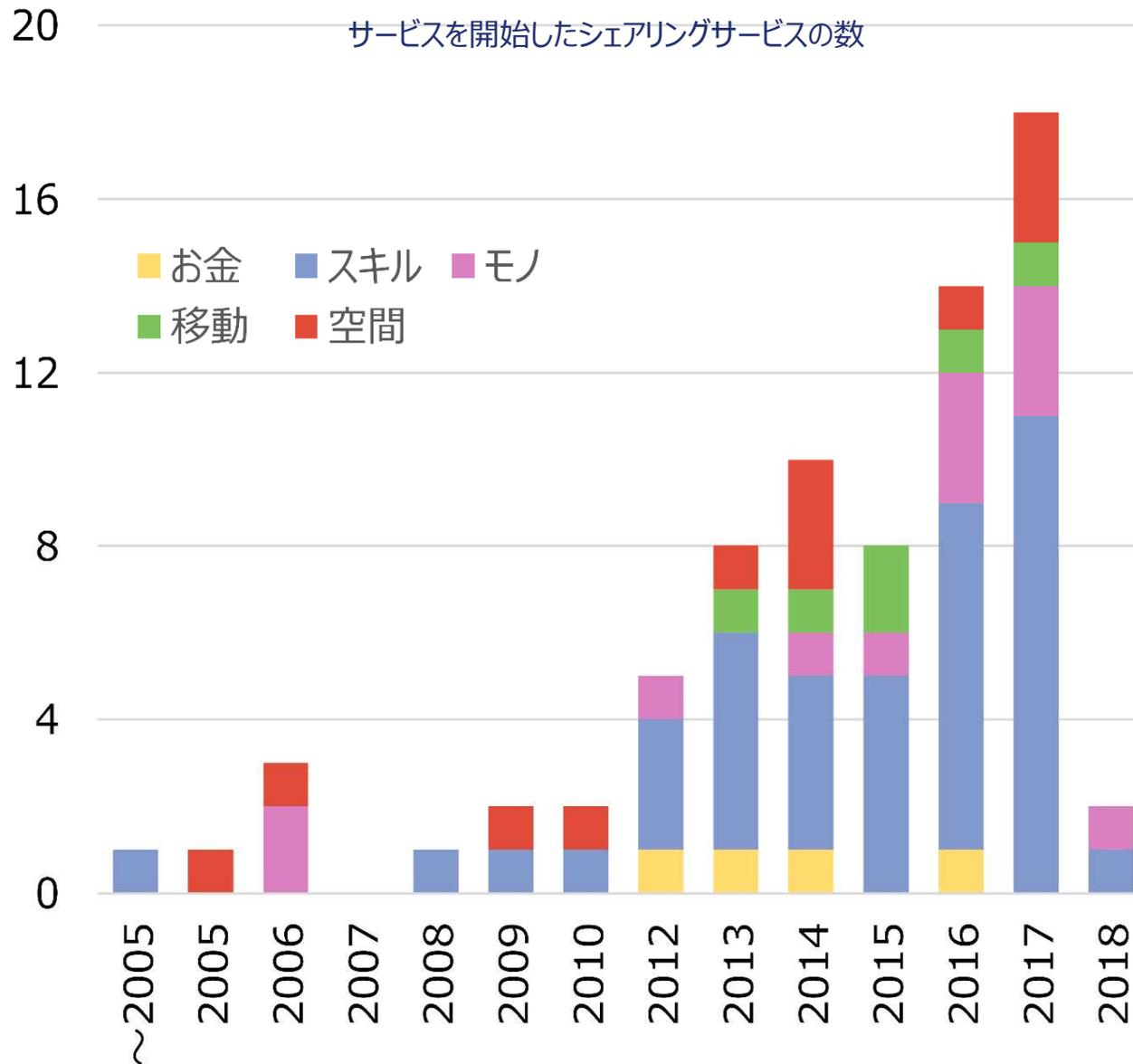
「新職業」	仕事に必要な要素
仮想空間創造師	CGデザイン VR技術 脳科学 産業(ゲーム・映像、建設・住宅、製造、旅行)
サイボーグ技術者	メカトロニクス(機械+電子) 生体工学・素材技術 産業(医療・介護、建設・運輸、ファッション) 行政(厚労省、国交省、総務省)
Vチューバー	キャラクターデザイン シナリオライティング スポンサー(消費財・サービス産業)

➡ 多様なクラスターのセレンディピティを生む生態系が不可欠

20

(出典) 第2回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」梅澤高明ゲスト委員資料

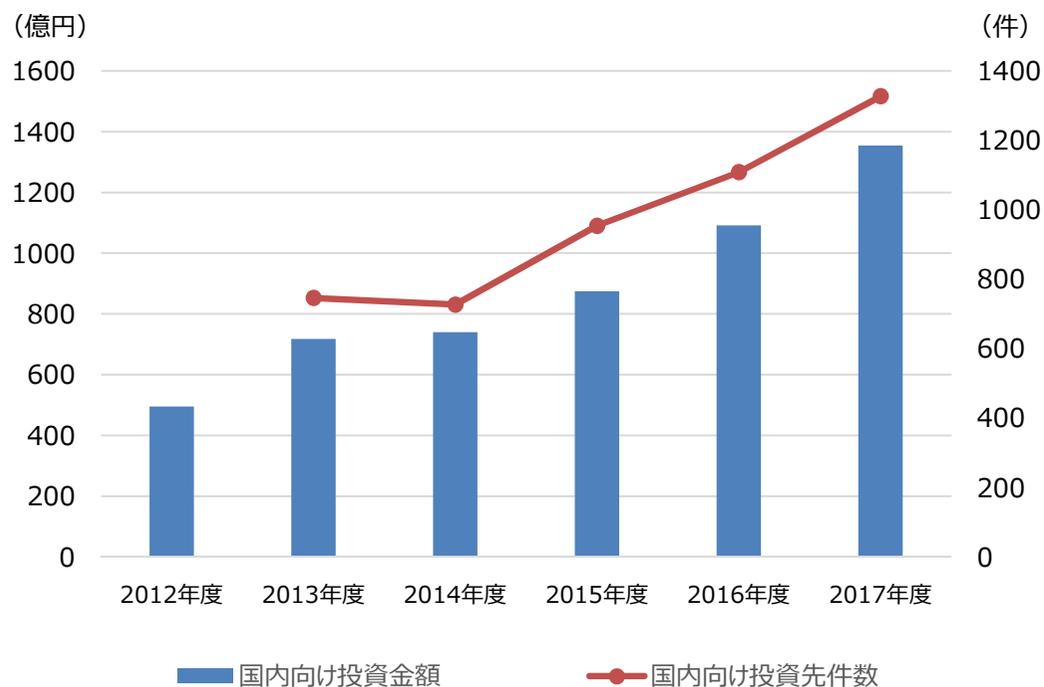
個人の多様な需要に対応し、遊休資産をインターネットを介して共有する シェアリングエコノミーが拡大している。



(出典) 総務省「平成30年情報通信白書」に基づき国土交通省都市局作成

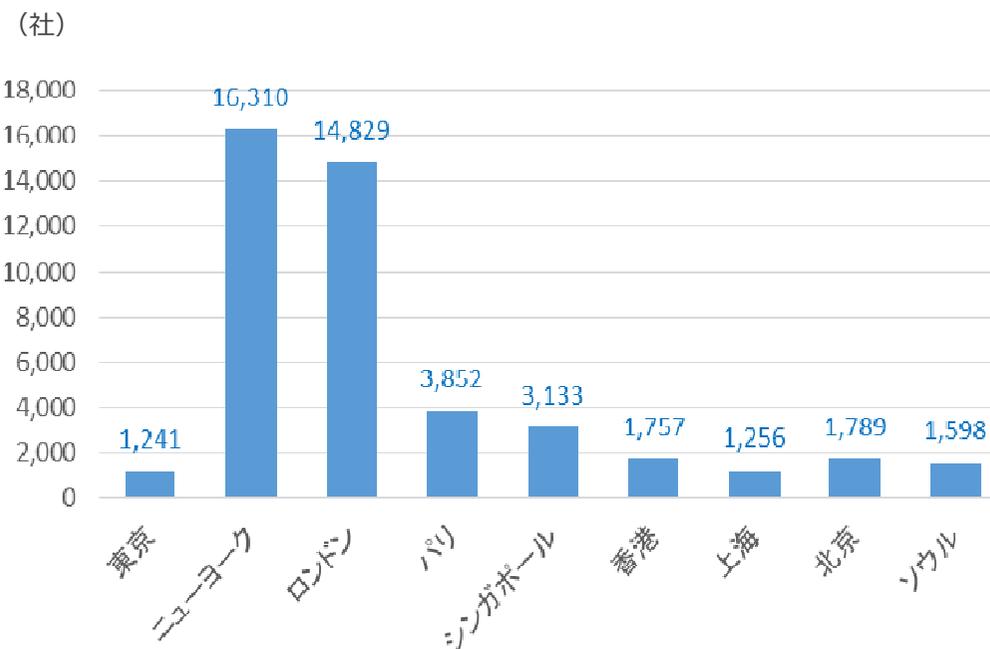
他国諸都市に比べ企業数は少ないものの、我が国のベンチャー企業投資市場は急速に拡大している。

国内に籍を置くベンチャーキャピタル等による
国内ベンチャー企業への投資金額と投資先件数の推移



(出典) 一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター「2017年度ベンチャーキャピタル等投資動向速報」に基づき国土交通省都市局作成

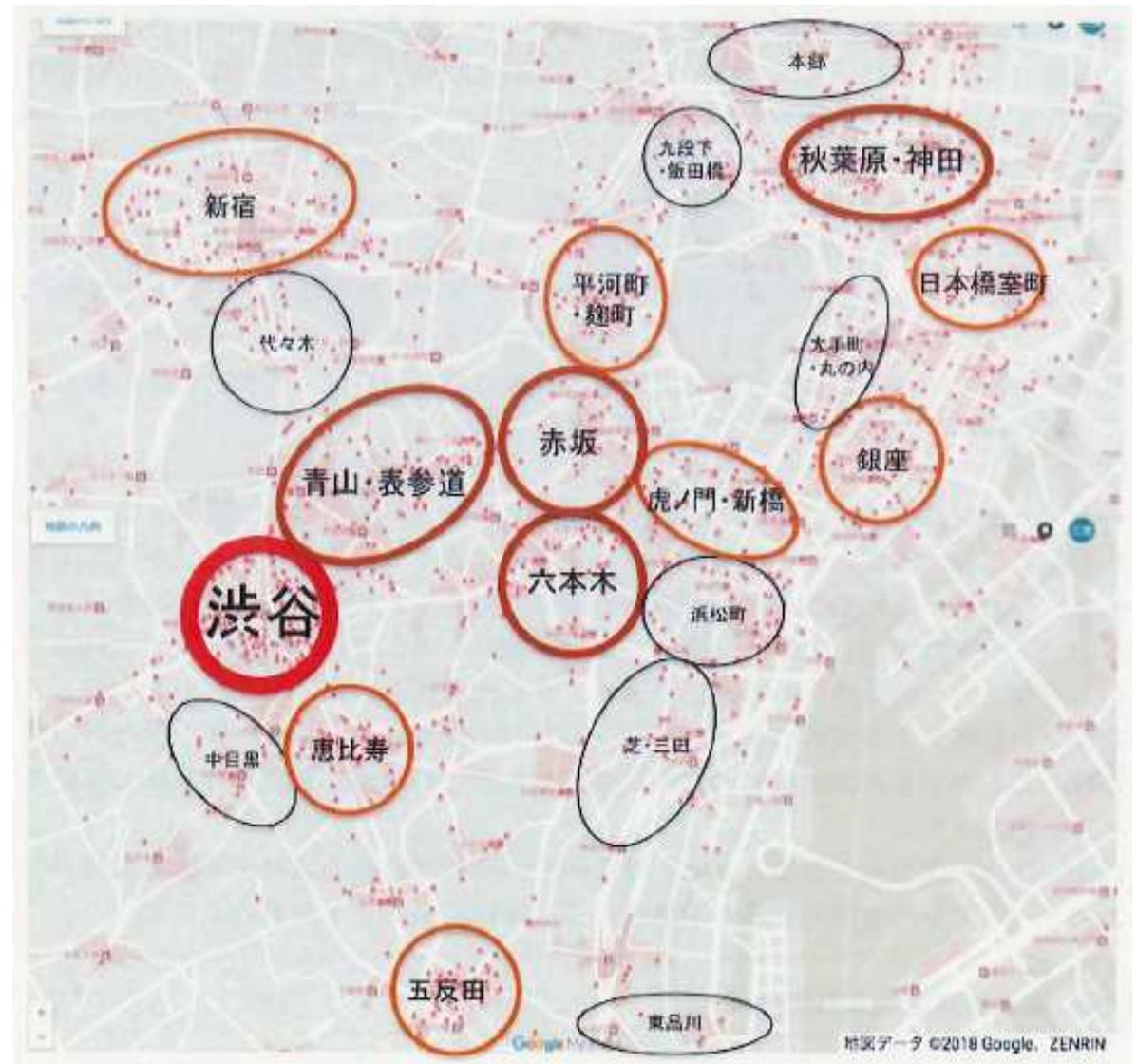
スタートアップ企業数 (2018年)



(出典) Crunchbase Inc. 「crunchbase pro」に基づき国土交通省都市局作成

スタートアップ企業は、鉄道沿線の利便性の高い場所を中心に局所的に高密度で集積。
再開発エリアに加え、賃料が安い中小ビルエリアに集積する動きもある。

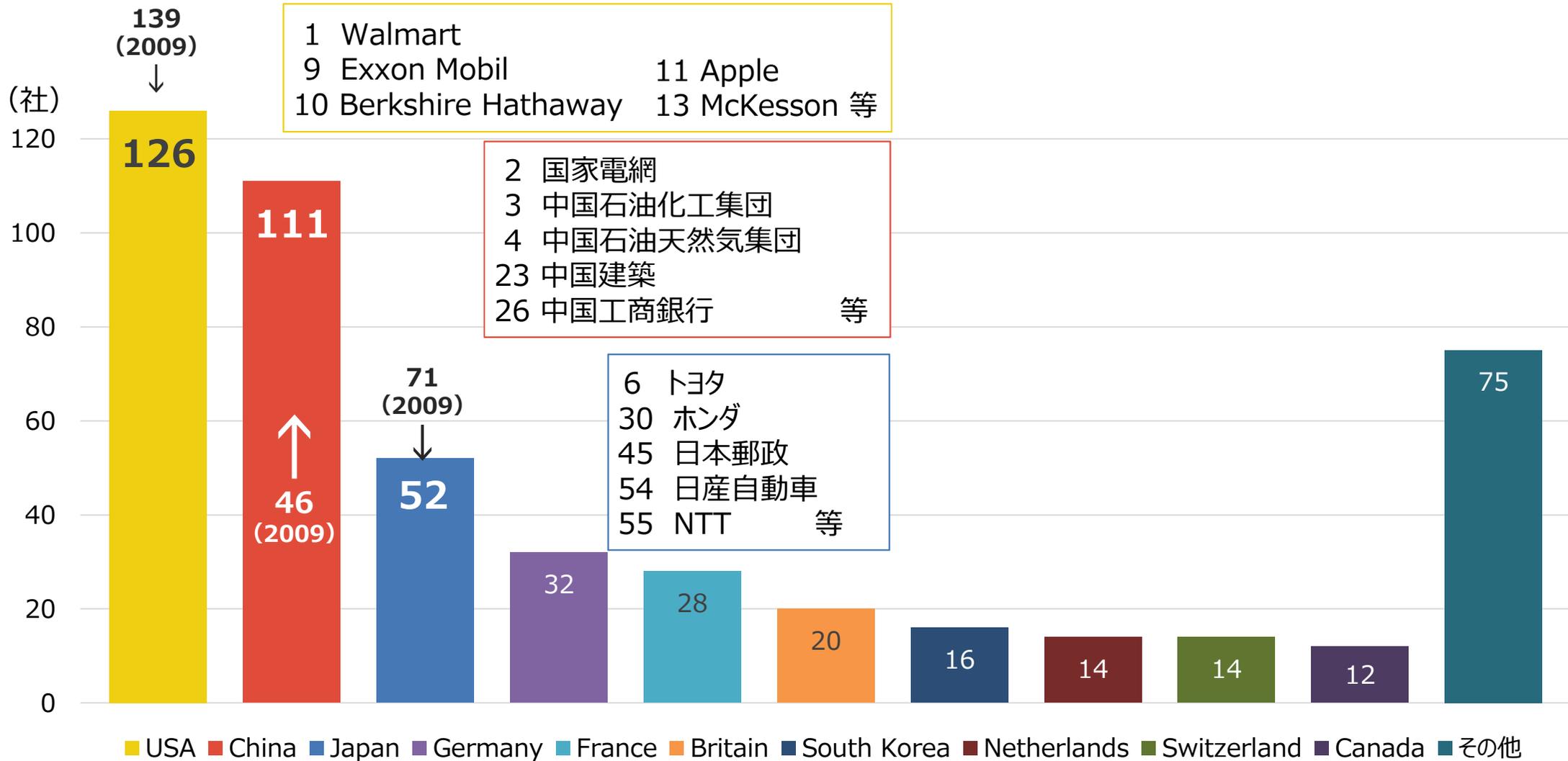
クラスター	集積率 (企業数/km ²)	企業数	面積 (km ²)
1 渋谷	235	491	2.09
2 秋葉原・神田	106	155	1.46
3 六本木	92	174	1.90
4 青山・表参道	84	268	3.19
5 赤坂	84	112	1.34
6 恵比寿	72	192	2.66
7 平河町・麹町	70	71	1.02
8 新宿	66	190	2.87
9 日本橋室町	64	43	0.67
10 虎ノ門・新橋	56	102	1.81
11 銀座	55	103	1.88
12 五反田	54	105	1.94
13 九段・飯田橋	49	38	0.78
14 浜松町	48	48	0.99
15 大手町・丸の内	47	62	1.31
16 代々木	38	87	2.32
17 芝・三田	30	87	2.87
18 中目黒	26	60	2.28
19 本郷	26	72	2.78
20 東品川	20	49	2.49



(出典) 小林乙哉 (東急電鉄) 「東京のスタートアップ企業の偏在状況と集積要因」

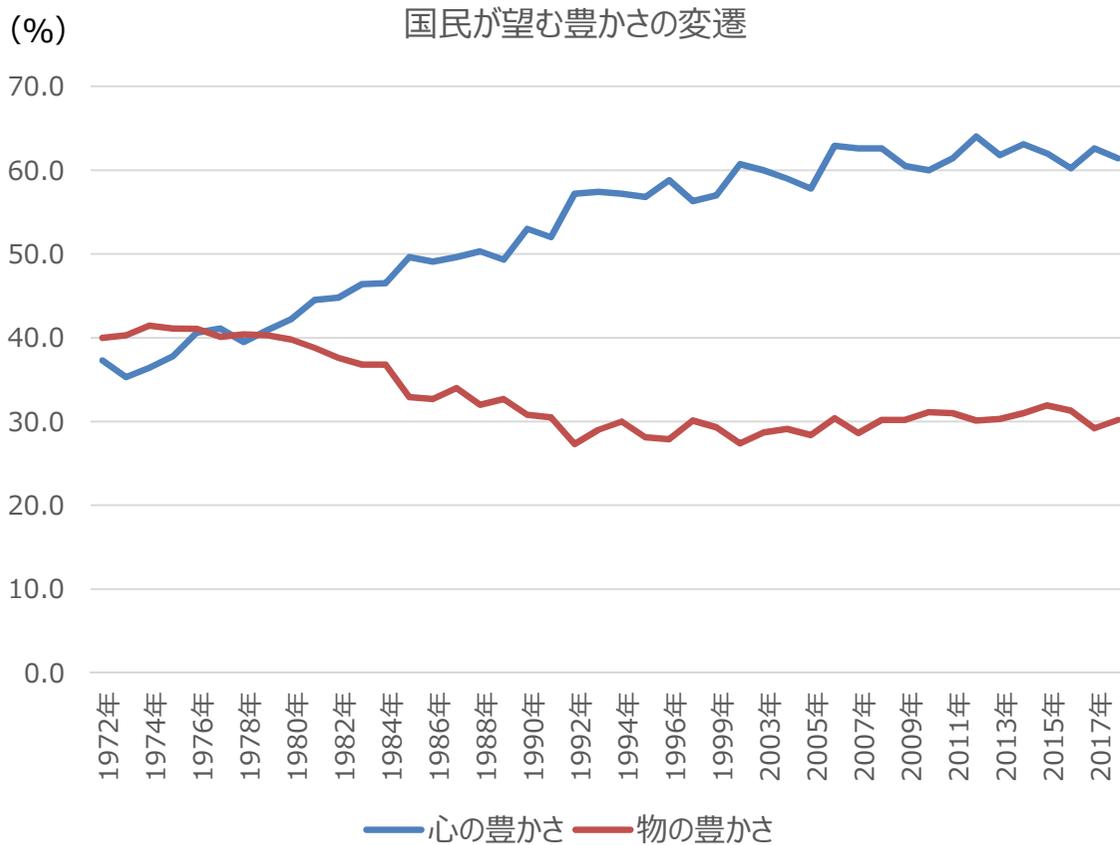
米Fortune誌の「Global企業500」選出企業は近年逆転し、中国企業が日本の約2倍。

2017総収益ランキング

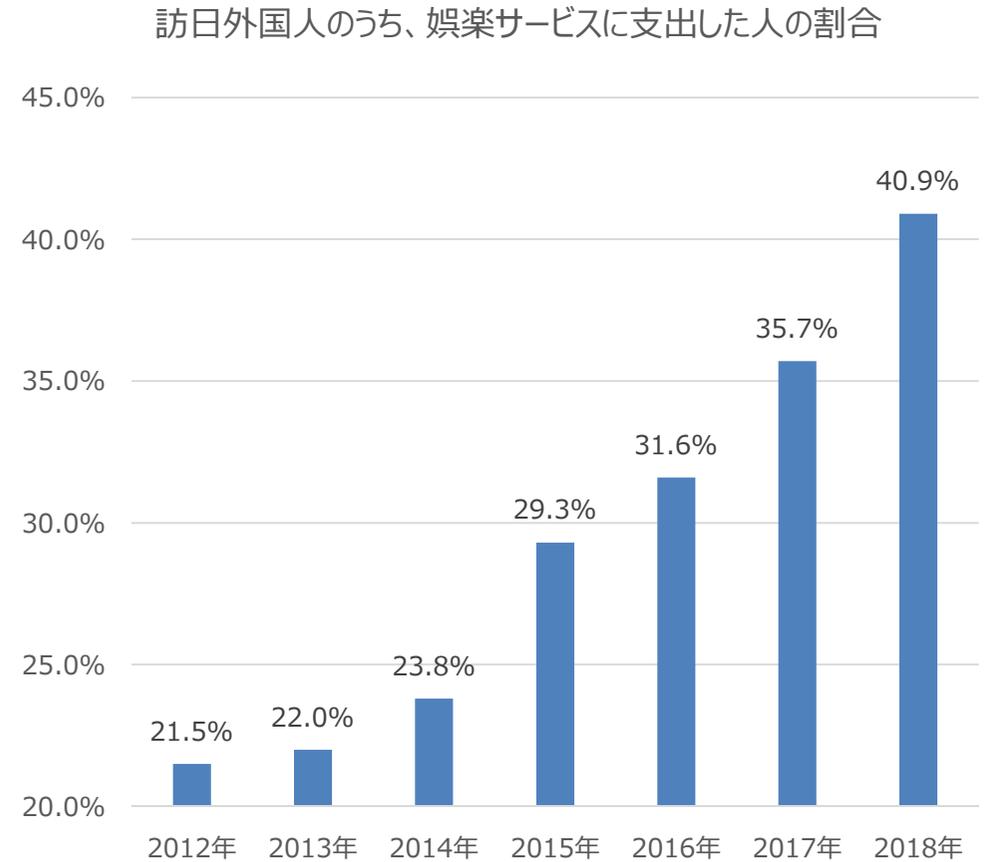


(出典) Fortune「2010 Global 500」, 「2018 Global 500」に基づき国土交通省都市局作成

物質的豊かさより精神的豊かさを望む人の割合が増加。
訪日外国人の娯楽サービス購入率も急増している。

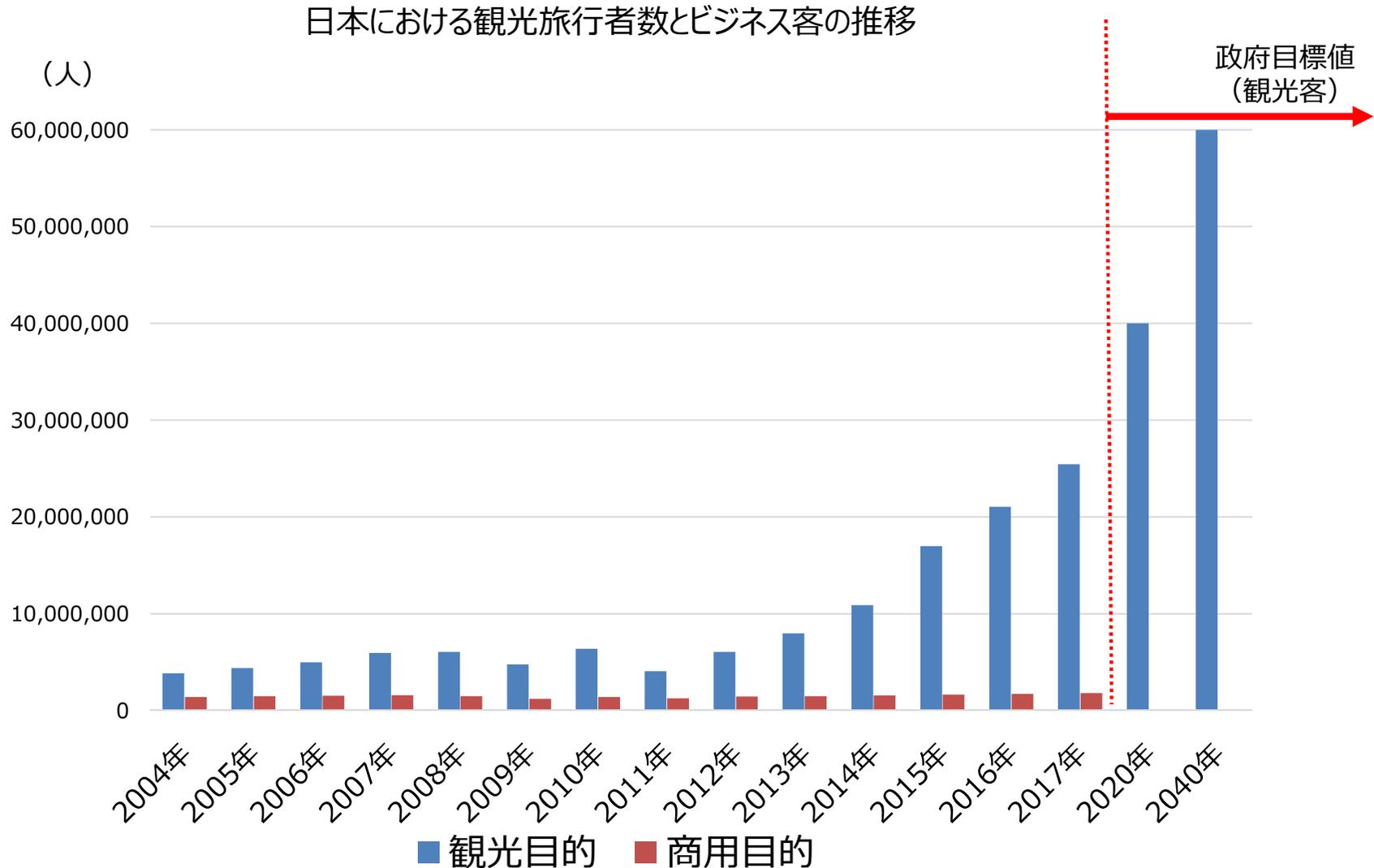


(出典) 内閣府「国民生活に関する世論調査(各年)」に基づき国土交通省都市局作成



(出典) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」に基づき国土交通省都市局作成

訪日外国人旅行者数は急速に増加し、今後も拡大が見込まれる。



(出典) 日本政府観光局「2017年 国籍別/目的別 訪日街客数 (確定値)」に基づき国土交通省都市局作成

潮流（3）都市間競争の加速

世界人口が増加する中で、都市部への人口・経済活動の集中が進んでいる。加えて、都市部への集中の中でも、人材や企業は、他の人材、企業、情報等との関わりを求め、**局所的に集積（スパイキー化）**する傾向が見られる。

これらの傾向は、社会・経済のグローバル化に伴い更に加速することも予想される。

今後、Society5.0時代を迎える中で、我が国各都市が国際競争力の強化を図るためには、他都市と差別化を図りながら、これまで以上に、多様なバックグラウンドを持つ**内外の人材を集積させる力**、これらの人々の交流を通じて**新しいアイデアやビジネスを創出**する力、**オープンイノベーション**を推進する力、**エコシステム**を形成する力を高めていくことが求められている。

潮流（3）都市間競争の加速

我が国においては、都市再生の政策目標である「世界の都市総合力ランキング（GPCI）」において、東京がロンドン、ニューヨークに続く3位に位置しているものの、**上位2都市との差は縮まらず、ライバル都市の追い上げ**は加速している。

また、外資系企業の進出は伸び悩み、市場の魅力（将来性）、人材集積、ビジネス環境、文化・交流、自然環境などが**弱み**とされ、これらを乗り越える取組が求められている。

政府では、平成30年7月より、「**世界に直結し、世界から直接、成長の息吹を取り込む**」こと等を目標に、各都市の国際競争力の強化へ取り組むこととしている。（都市再生基本方針（平成30年7月13日閣議決定））

潮流（3）都市間競争の加速

引き続き多くの課題が残されているものの、安全や交通などの基礎的サービスの整備が各地で着実に進展する中で、前述の弱みの克服に加え、一部で指標化の試みが開始されている、統計では必ずしも把握しきれない、**五感に訴えかけて国内外の人材を惹きつける魅力・磁力**を併せて強化していく必要がある。

人が魅力を感じ、集まるのは、居心地の良さ、かっこよさ、本物感などを持つ、多様な要素にあふれた都市であり、これまでの取組を維持・発展させながら、これらの要素にも着目した**より高いレベルのまちづくり**に向けた新しい取組が求められている。

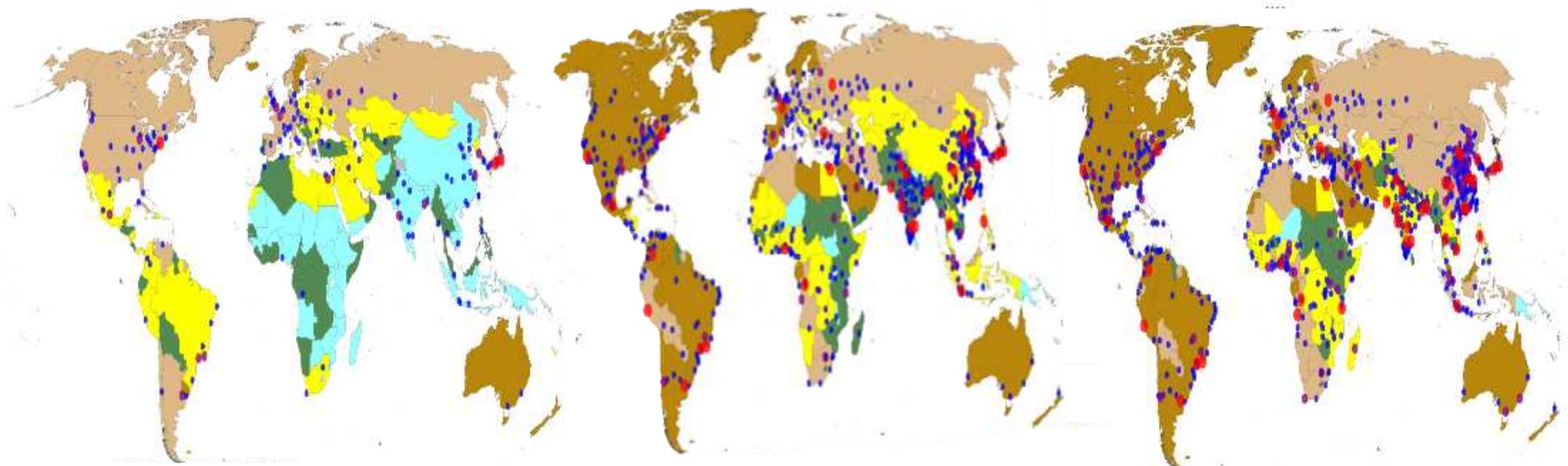
2018年現在、33のメガシティ（人口規模1,000万人超）に都市居住者の約8分の1が居住。さらに、**2030年にはメガシティは43都市にまで拡大する見込みとされている。**

世界的な都市化の進展

1970 : 3 megacities ●

2018 : 33 megacities ●

2030 : 43 megacities ●



- 1970年から日本のメガシティは東京、大阪の2都市
- 東京は3,700万の人口を有する世界最大の都市（横浜市等まで1都市と整理されている）

City population

- 10 million or more
- 5 million to 10 million
- 1 million to 5 million

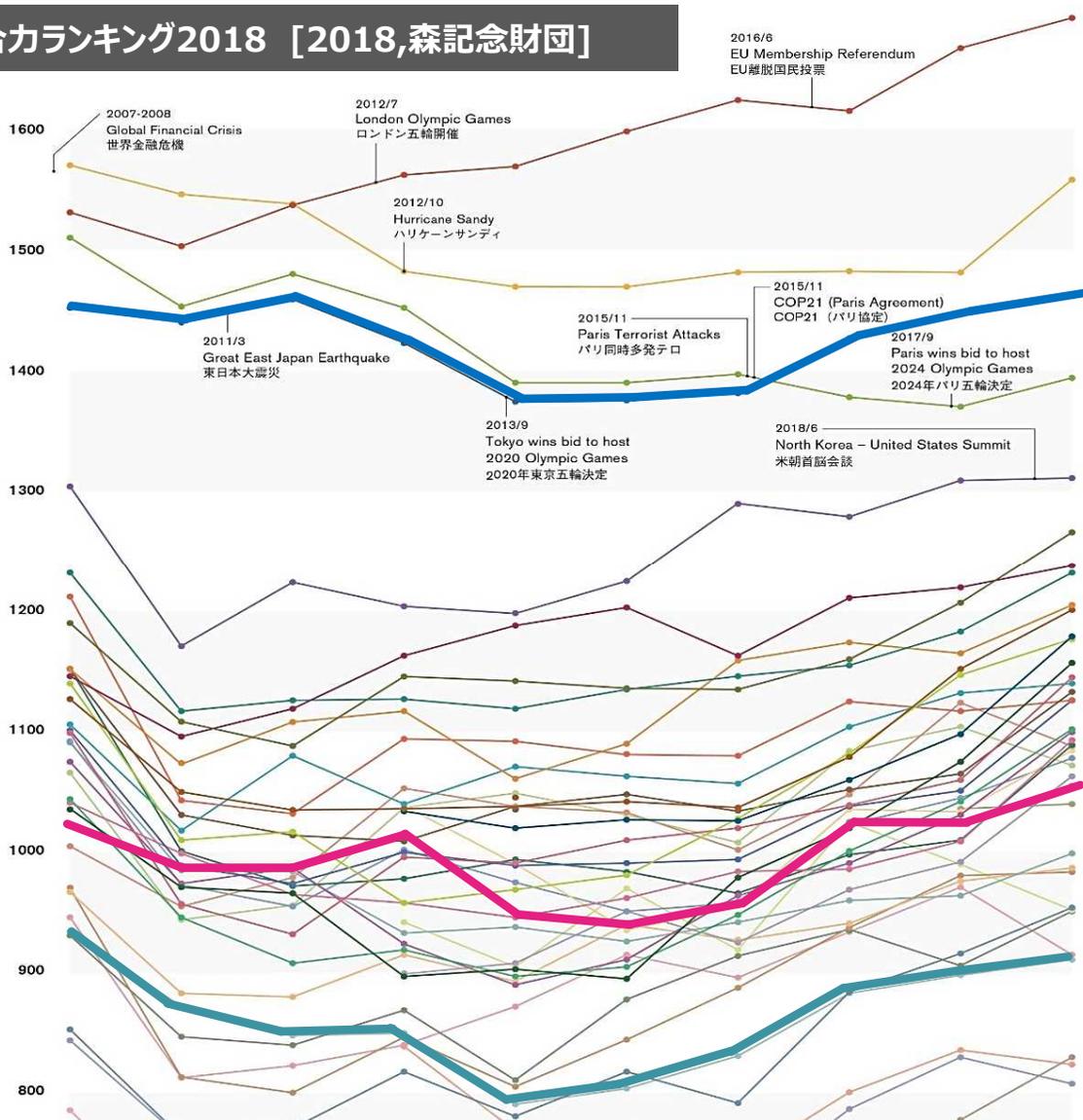
Percentage urban

- 80-100%
- 60-80%
- 40-60%
- 20-40%
- 0-20%
- No data

(出典) 国際連合「World Urbanization Prospects 2014, 2018」に基づき国土交通省都市局作成

東京は3位に位置するが、1位のロンドン、2位のNYとスコアの差が広がりつつある。
一方、シンガポールなどアジアのライバル都市との差は縮まっている。

世界の都市総合ランキング2018 [2018,森記念財団]

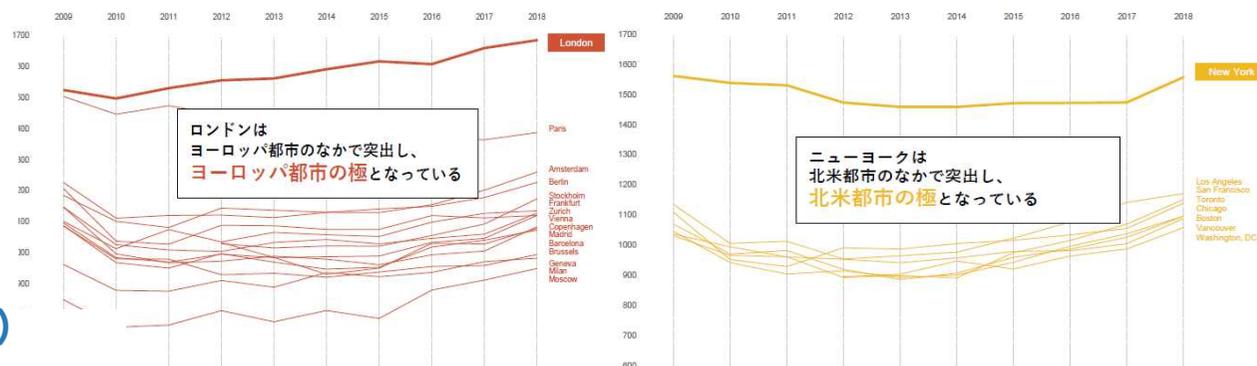


- London
- New York
- Tokyo 3位**
- Paris
- Singapore
- Amsterdam
- Seoul
- Berlin
- Hong Kong
- Sydney
- Stockholm
- Los Angeles
- San Francisco
- Toronto
- Frankfurt
- Zurich
- Vienna
- Copenhagen
- Chicago
- Boston
- Vancouver
- Madrid
- Beijing
- Barcelona
- Brussels
- Shanghai
- Washington, DC
- Osaka 28位**
- Dubai
- Geneva
- Milan
- Kuala Lumpur
- Moscow
- Istanbul
- Taipei
- Bangkok
- Fukuoka 37位**
- Buenos Aires
- Mexico City
- Sao Paulo
- Jakarta
- Johannesburg
- Mumbai
- Cairo

(出典) 森記念財団「世界の都市総合ランキング2018」に基づき国土交通省都市局作成

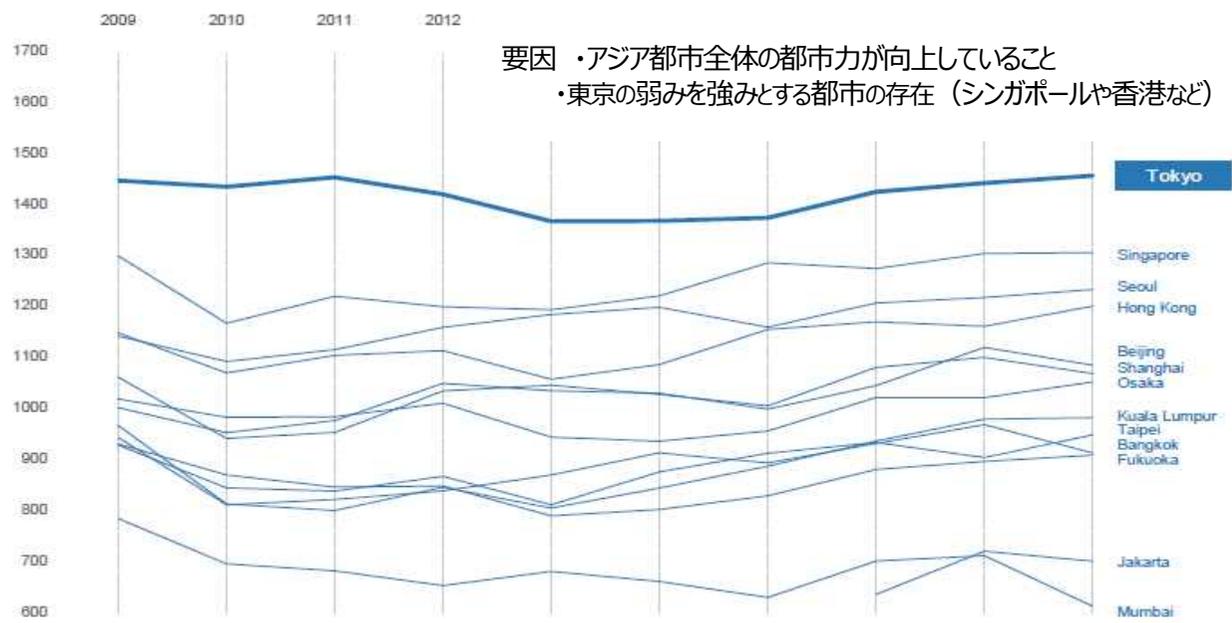
欧州におけるロンドン、北米におけるN Yに比べ、 東京は、アジア都市のなかで突出する「核」となっていない。

世界の都市総合ランキング2018 [2018,森記念財団]

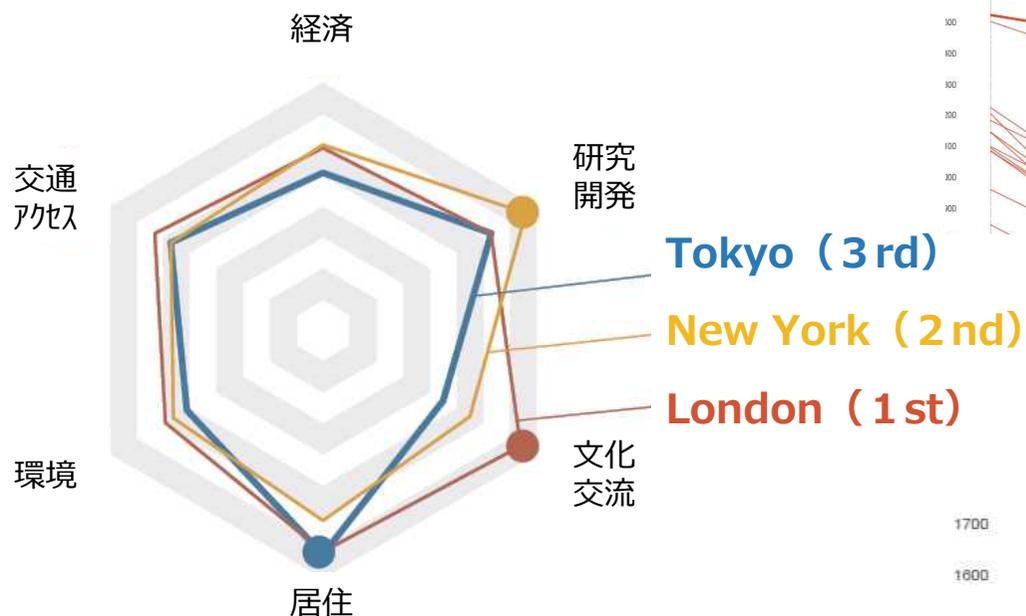


ロンドンとニューヨークは、それぞれ突出した「地域の核」

東京はアジア都市のなかでトップではあるが、
極として突出するまでには至っていない。



(出典) 森記念財団「世界の都市総合ランキング2018」に基づき国土交通省都市局作成



強み

- 世界トップ500企業
- 特許登録件数
- 食事の魅力
- 住宅賃料水準
- 公共交通の正確さ・充実

等

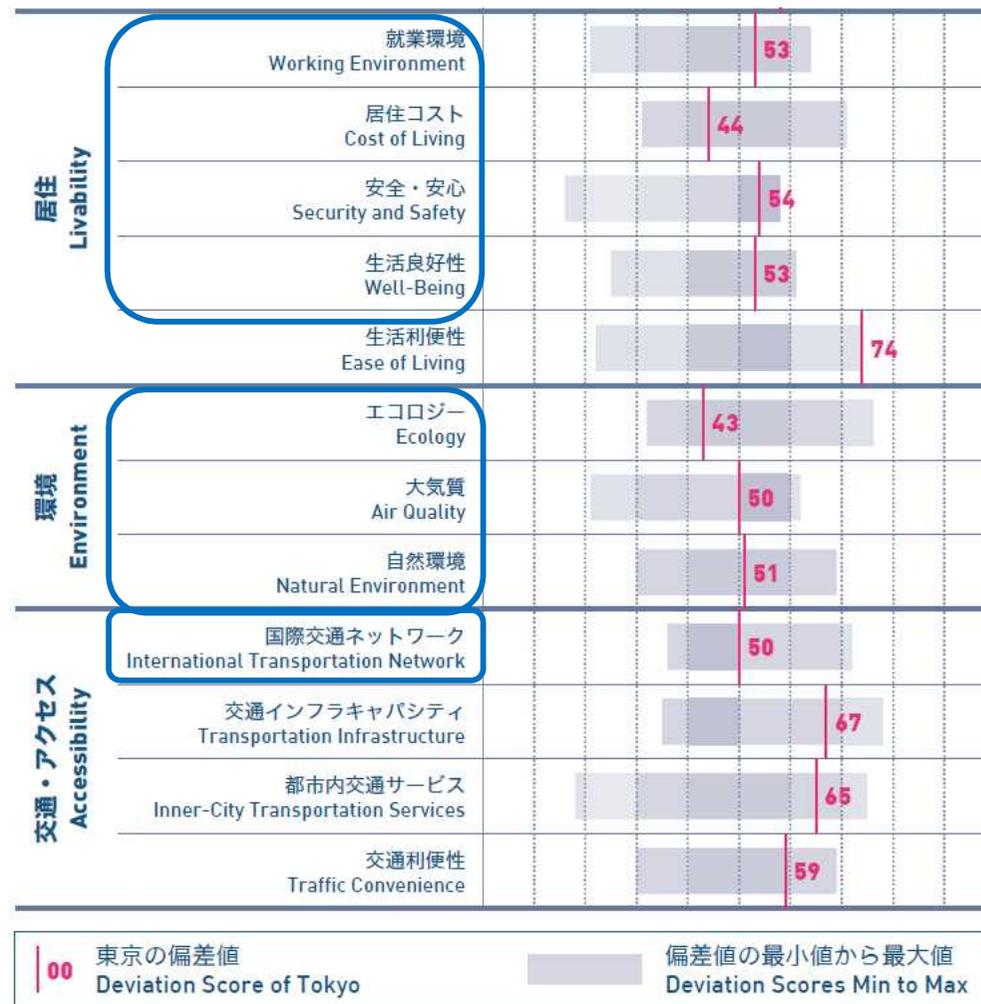
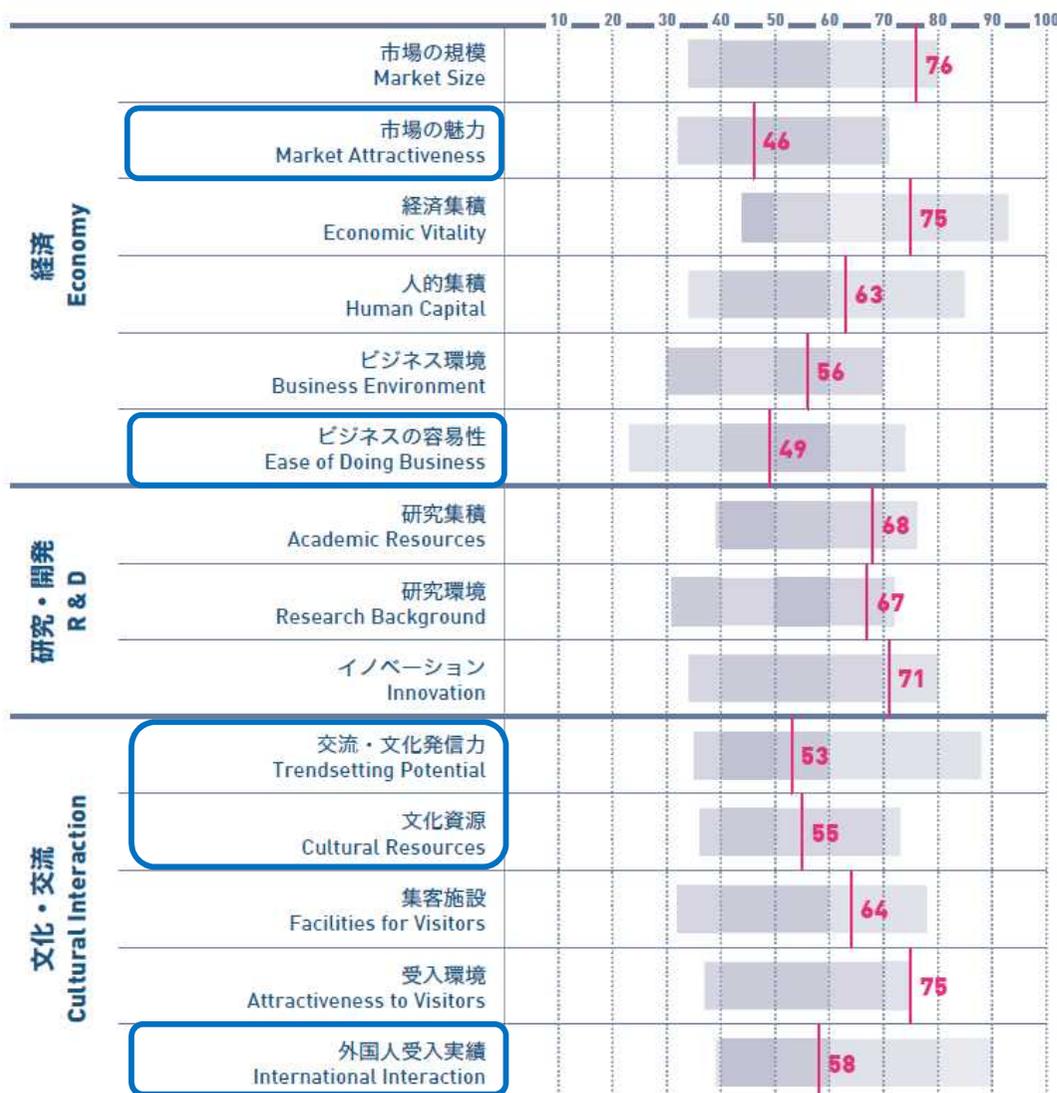
弱み

- GDP成長率
- 優秀な人材確保の容易性
- スタートアップ環境
- 歴史・伝統への接触機会
- 外国人居住者数

等

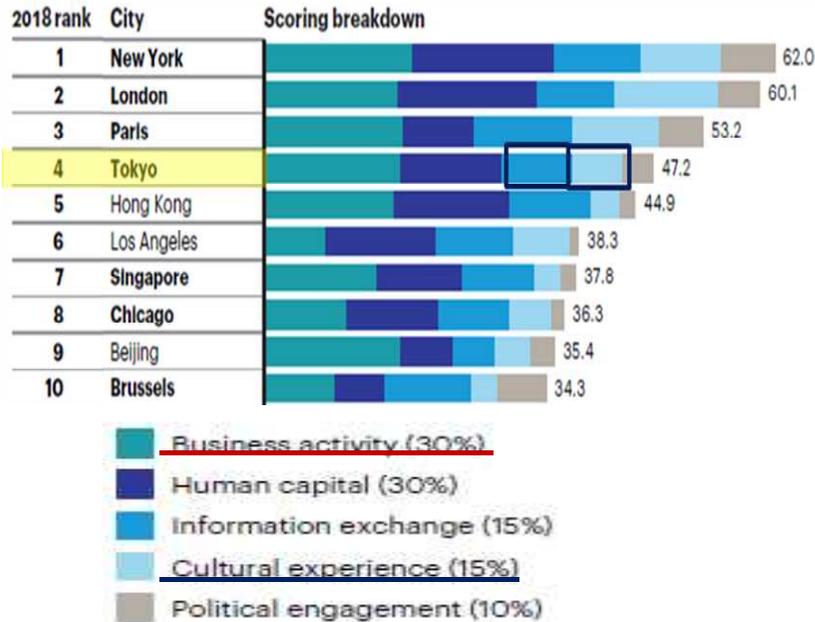
東京は、市場・経済規模、交通インフラなどが高く評価される一方、ビジネス・就業環境、市場の魅力（将来性）、文化・交流、居住・生活コスト、自然環境などが「弱み」とされる傾向

世界の都市総合ランキング2018 [2018,森記念財団]

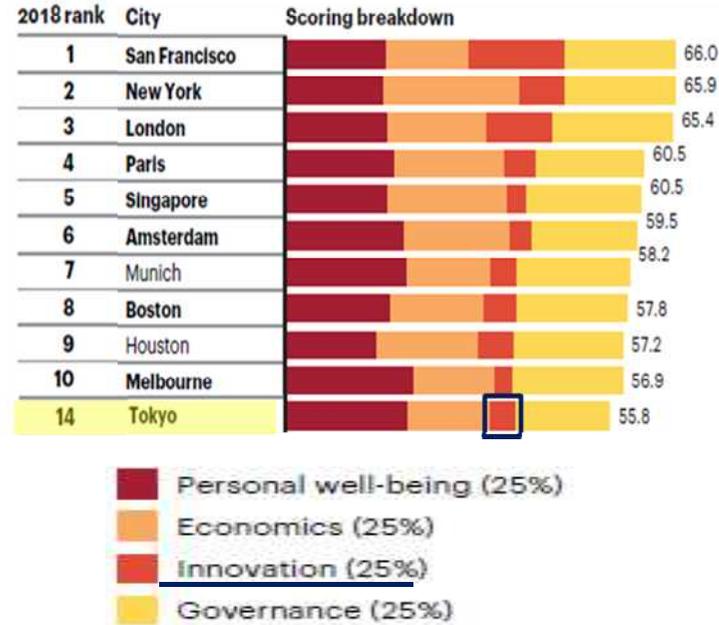


2018 Global Cities Report [2018, A.T. Kearney]

Global Cities Index, rank and score



Global Cities Outlook, rank and score



都市の現時点ランキングで東京は4位。情報交換、文化的体験で低評価。

将来性ランキングではイノベーションの評価が低く、14位。

(出典) A.T.Kearney「2018 Global Cities Report」を元に国土交通省都市局作成

Cities of Opportunity 7 [2016, PwC]

トップ10都市と東京（総合15位）を比較すると、東京は健康・安全・治安に強み、産業・生活のコストや交通・インフラ、経済的影響力、ビジネスのしやすさに弱み

	知的資本・イノベーション	技術の成熟度	ゲートウェイ機能	交通・インフラ	健康・安全・治安	持続可能性と自然環境	人口構成・住みやすさ	経済的影響力	ビジネスのしやすさ	産業・生活のコスト
①ロンドン	1位	2位	1位	8位	8位	13位	3位	1位	3位	26位
②シンガポール	12位	1位	8位	1位	6位	20位	17位	9位	1位	12位
③トロント	4位	9位	17位	12位	2位	3位	7位	12位	4位	2位
④パリ	3位	9位	2位	8位	10位	6位	1位	8位	6位	27位
⑤アムステルダム	4位	3位	8位	15位	7位	5位	6位	10位	14位	15位
⑥ニューヨーク	6位	3位	10位	7位	16位	16位	1位	2位	7位	25位
⑦ストックホルム	10位	5位	21位	3位	4位	1位	9位	10位	5位	20位
⑧サンフランシスコ	2位	7位	19位	5位	12位	8位	5位	4位	13位	18位
⑨香港	14位	6位	5位	13位	11位	17位	11位	12位	2位	14位
⑩シドニー	9位	14位	18位	10位	3位	1位	12位	6位	15位	15位
⑮東京	8位	8位	6位	18位	1位	15位	11位	16位	16位	24位

(出典) PwC「Cities of Opportunity 7」に基づき国土交通省都市局作成

統計等による定量的な評価が難しい「関係性」、「身体性」により都市を評価する取組も始まっている。

Sensuous City (官能都市) ～身体で経験する都市ランキング～ [LIFULL HOME' s 総研]

動詞で都市を評価：関係性

共同体に帰属している

- ✓ お寺や神社にお参りをした
- ✓ 地域のボランティアやチャリティに参加した
- ✓ 馴染みの飲み屋で店主や常連客と盛り上がった
- ✓ 買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ

匿名性がある

- ✓ カフェやバーで1人で自分だけの時間を楽しんだ
- ✓ 平日の昼間から外で酒を飲んだ
- ✓ 不倫のデートをした
- ✓ 夜の盛り場でハメを外して遊んだ

機会がある

- ✓ 刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティーに参加した
- ✓ ためになるイベントやセミナー・市民講座に参加した
- ✓ コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した
- ✓ 友人・知人のネットワークで仕事を紹介された・紹介した

ロマンスがある

- ✓ デートをした
- ✓ ナンパした・された
- ✓ 路上でキスした
- ✓ 素敵な異性に見とれた

動詞で都市を評価：身体性

食文化が豊か

- ✓ 庶民的な店でうまい料理やお酒を楽しんだ
- ✓ 地元でとれる食材を使った料理を食べた
- ✓ 地酒、地ビールなど地元で作られる酒を飲んだ
- ✓ ミシュランや食べログの評価の高いレストランで食事した

街を感じる

- ✓ 街の風景をゆっくり眺めた
- ✓ 公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た
- ✓ 活気ある街の喧騒を心地よく感じた
- ✓ 商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた

自然を感じる

- ✓ 木陰で心地よい風を感じた
- ✓ 公園や水辺で緑や水に直接ふれた
- ✓ 美しい青空や朝焼け・夕焼けを見た
- ✓ 空気が美味しくて深呼吸した

歩ける

- ✓ 通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた
- ✓ 外で思い切り身体を動かして汗をかいた
- ✓ 家族と手を繋いで歩いた
- ✓ 遠回り、寄り道していつもは歩かない道を歩いた

(出典) 第2回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」島原万丈ゲスト委員資料

(Intentionally blank)

潮流（４）働き手・働き方の多様化

人口減少を背景として、我が国では、2010年頃から働き手の多様化が進み、さらに近年では働き方の多様化が進展している。

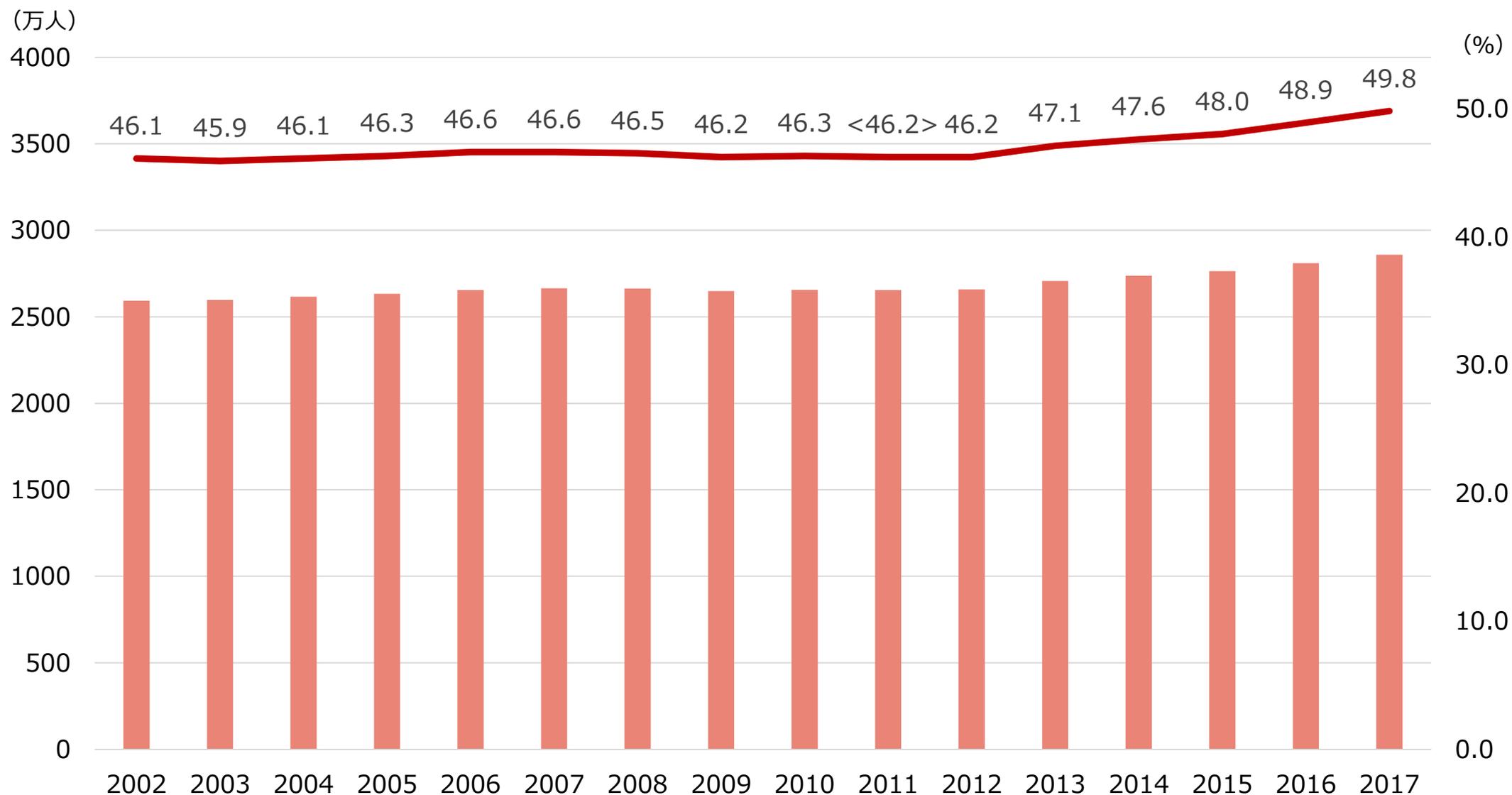
各都市では、**女性や高齢者等の就業が拡大**し女性や高齢者（65～69歳）の就業率は50%近くに達している。

また、働き方についても、「働き方改革」やワークライフバランスを重視する傾向や、各企業におけるオープンイノベーション推進の動きもあり、固定のオフィスで決められた時間に働く画一的な働き方ではなく、**テレワーク**を取り入れる、**フリーランスや副業**を推進する、平日と休日で生活の拠点を交える（**デュアラー**）等の多様化も進み、それに伴い、シェアオフィスやコワーキングスペースなど**新たな形態のワークプレイス**が増えている。

潮流（４）働き手・働き方の多様化

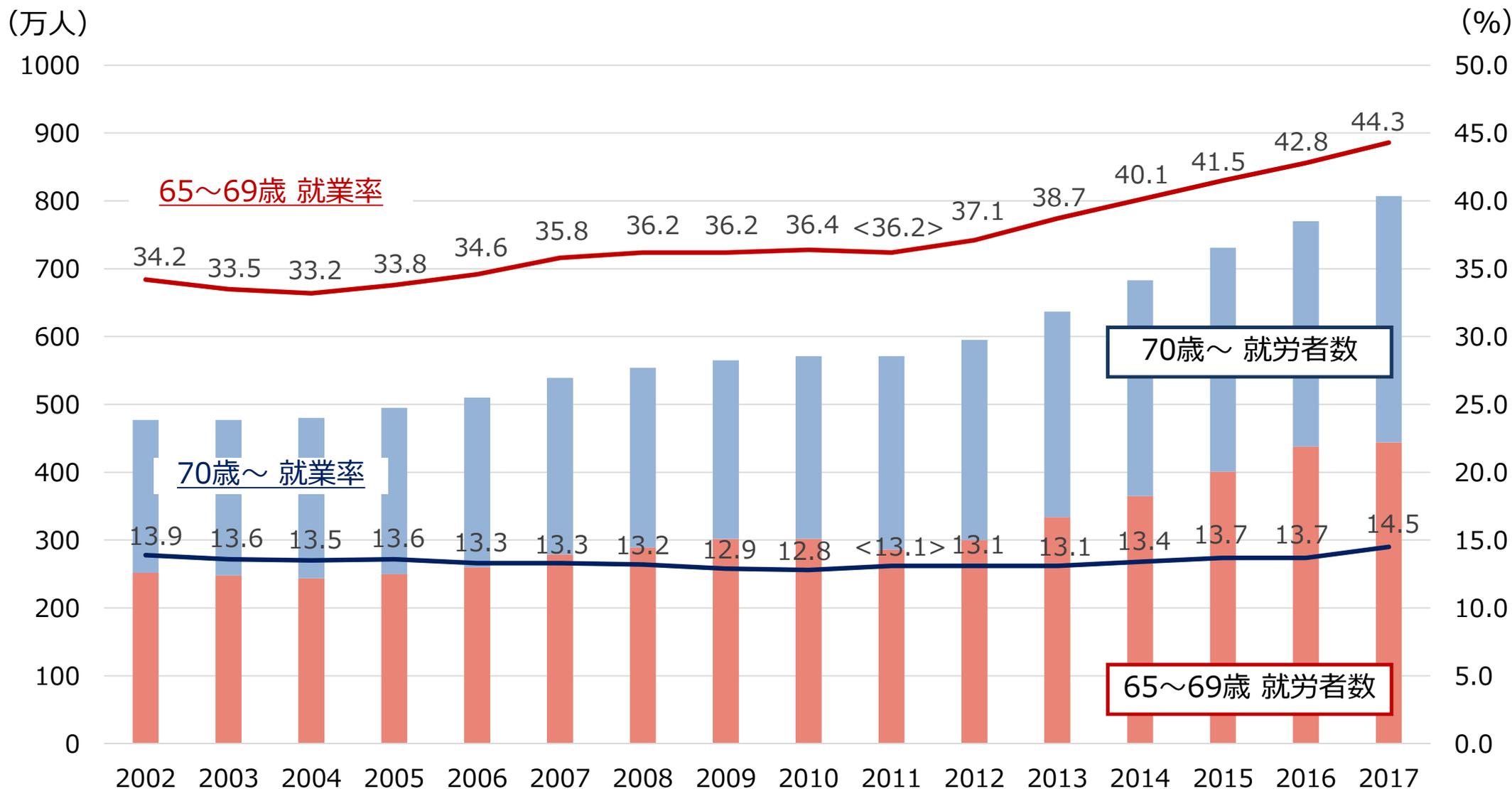
これら**働き手や働き方の多様化**、ひいては**ライフスタイルの多様化**は、まちで働く層、生活する層、訪れる層に新たな変化を加える。「働く場」として捉えられてきたオフィス街にも商業や憩いの空間が求められ、あるいは「生活の場」と捉えられてきた住宅街やベッドタウンにもコワーキングスペースなどのビジネス機能が導入されるなど、まちが果たすべき機能、特徴も大きく変わりつつある。

女性の就労者数は、近年急速に拡大し、**2017年に2858万人まで増加、**
就業率も50%程度まで上昇している。



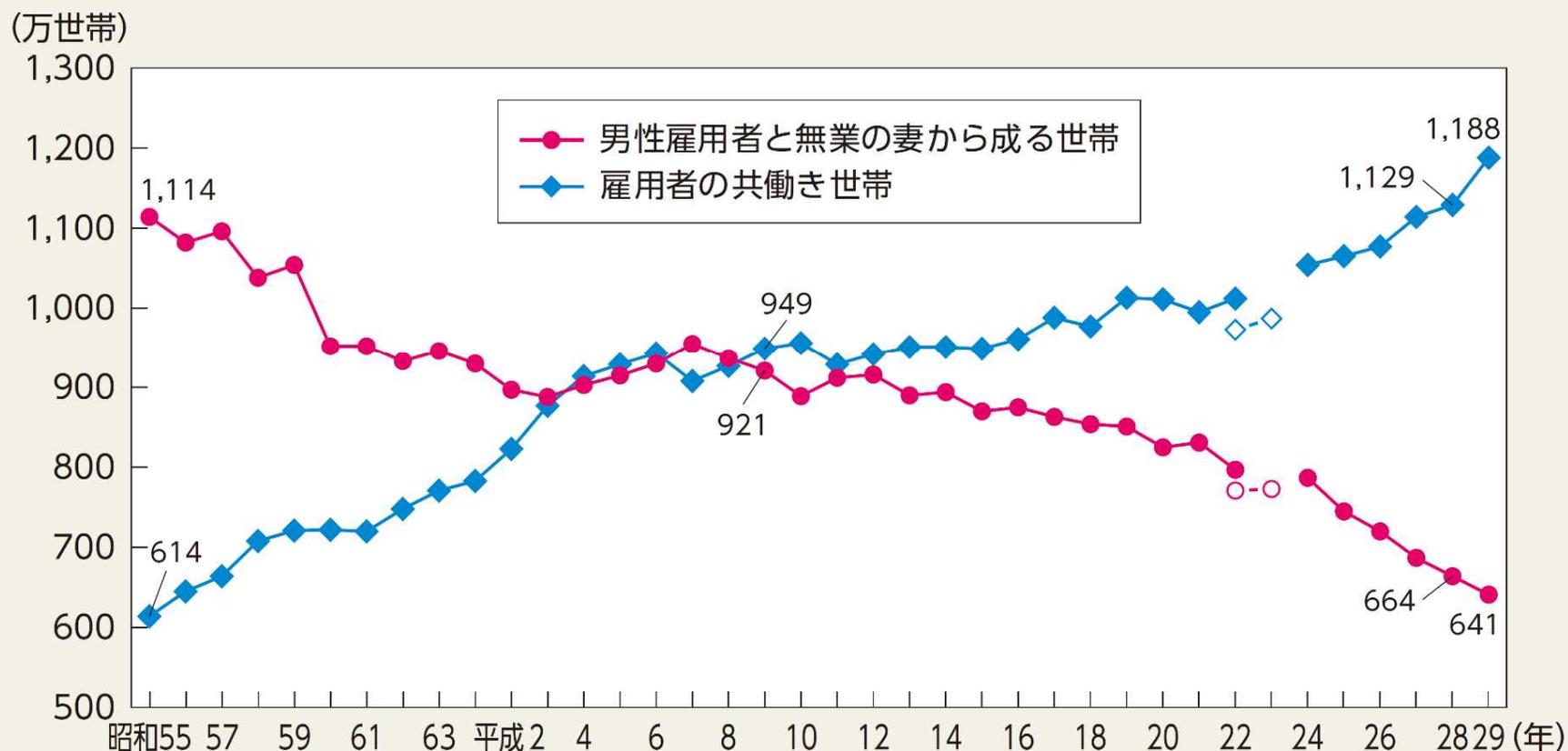
(出典) 総務省「労働力調査」に基づき国土交通省都市局作成

近年、高齢者（65～69歳）の就労者数、就業率は上昇傾向であり、**2017年には44%が就労**している。一方、70歳以上の就業率は12～14%の間で横ばいである。



(出典) 総務省「労働力調査」に基づき国土交通省都市局作成

共働き世帯は1000万世帯を突破し、男性のみ働く世帯数の2倍近くにのぼる。

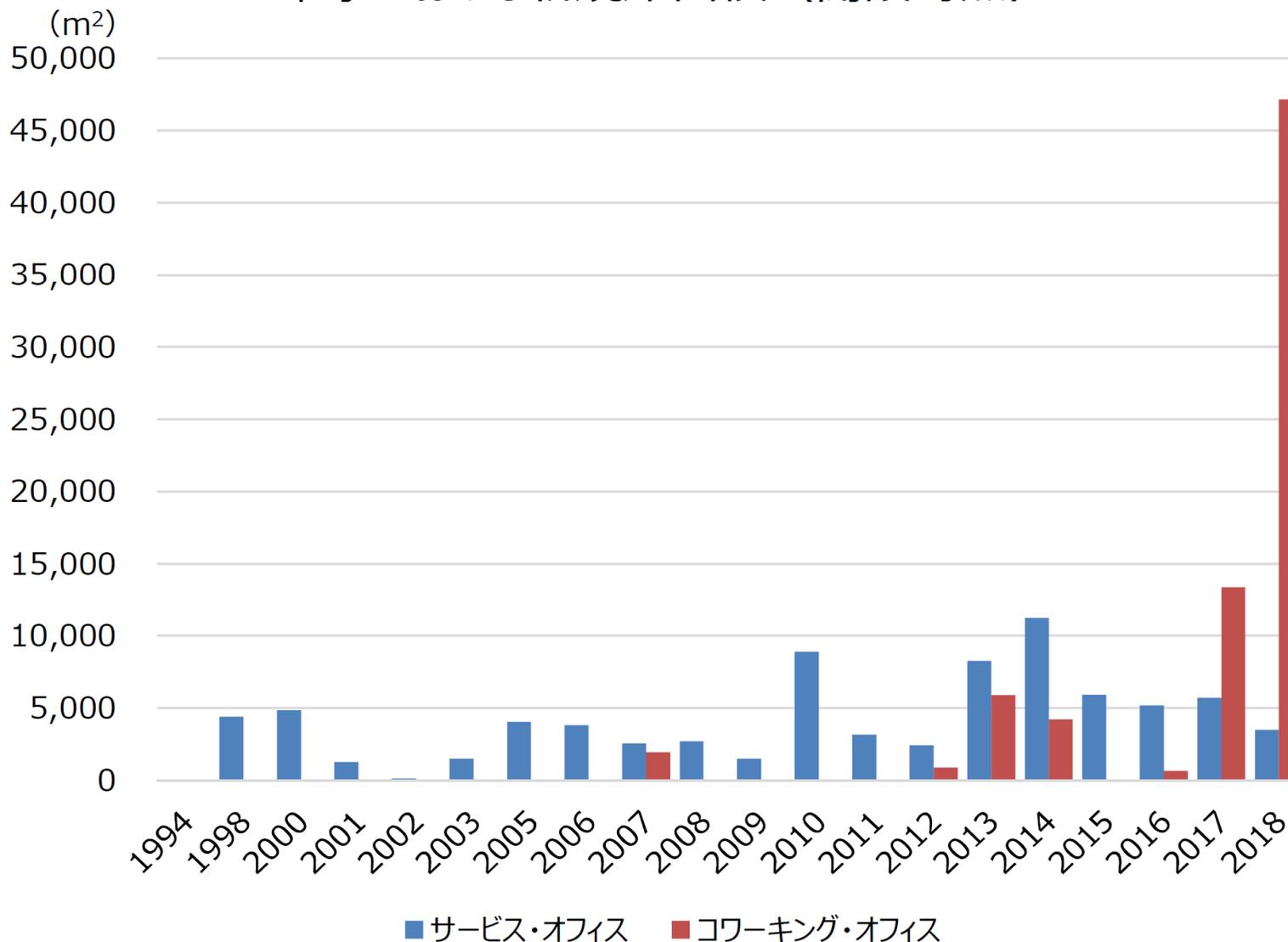


- (備考) 1. 昭和55年から平成13年までは総務庁「労働力調査特別調査」(各年2月。ただし、昭和55年から57年は各年3月)、平成14年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。
3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦共に非農林業雇用者(非正規の職員・従業員を含む)の世帯。
4. 平成22年及び23年の値(白抜き表示)は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

(出典) 内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書平成30年度版」

就業者の多様化、「働き方改革」の取組等を受けて、
コワーキングスペース等が大幅に増加している。

東京における新規床面積（開設時点）



(出典) JLL提供資料に基づき国土交通省都市局作成

大小様々な規模のインキュベーション施設、コワーキングスペースが急増している。

7-2 インキュベーション施設

都心部に急増するインキュベーション施設・コワーキングスペース

Ⅰ 本市の取組
Ⅱ 具体的な取組
Ⅲ エリア別取組

① Midland Incubators House

U29の名古屋の起業家エコシステムを形成することを目的とし設立されたスタートアップコミュニティ
人材育成やイベント開催、人材マッチングの機会を提供

2018年6月～

② Open Innovation Complex of Nagoya University (OICX)

「ベンチャー・エコシステム」形成のハブとして名古屋大学により設立されたオープンイノベーション拠点

2017年10月～

③ WeWork Grobal Gate Nagoya

新たな国際歓迎・交流拠点ささしまライブ24地区の中核、グローバルゲートに世界屈指のユニコーン企業WeWorkが進出決定！

2019年5月開業予定

④ MY CAFE

⑤ Spaces

⑥ S PLACE 名古屋駅前

⑦ (旧那古野小学校) ※2019年予定

⑧ Share ability space Enicia

⑨ ベースキャンプ名古屋

⑩ 自習カフェ名駅

⑪ プロコワ

⑫ ア Coworking Space A+LIVE

⑫ イ sharebase.InC

⑭ MY CAFE

⑮ CoWorker's ADHOC

⑯ DIVISION

⑳ AromaForest (金山)

㉑ 名古屋ビジネスインキュベータ (金山)

㉒ 名古屋ビジネスインキュベータ (白金)

㉓ task-school (千種)

㉔ WORKLOUNGEYAGOTO (八事)

⑰ Share ability space Enicia

⑱ Coffice名古屋伏見

⑲ ADEA Co-Working Space

⑳ TRANSIT STUDIO

㉑ COVO工房

㉒ サープコープ名古屋日興證券

㉓ Connect Sakae

㉔ NAYUTABLD

㉕ (イノベーション拠点) ※2019年予定

㉖ レガールカフェ栄

㉗ ア minna no kaisha

㉗ イ Open Village

㉙ fabbit栄

㉚ (東桜1丁目) ※2022年予定

㉛ 栄MO倶楽部

㉜ MG HISAYA



(出典) 第1回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」名古屋市資料

働き方・働き手の多様化に伴い、
オフィス中心だったまちなみに新たな機能が求められるようになっている。

空間の再編 丸の内仲通り

8



都市空間の活用 丸の内仲通り



潮流（５）ソーシャルキャピタルの低下

今後、我が国においては、人口減少に続き2023年をピークに世帯数が減少し、その構成も単身世帯、高齢者世帯が多くを占めることが予測されている。このような世帯数や世帯構成の変化は、**世代間の交流や人と人とのつながりの力**を低下させ、**社会全体の活力**の低下につながるおそれがある。

また、我が国の多くの都市で社会的つながりを担ってきた町会・自治会等の地縁組織においても加入率の低下傾向が見られており、孤独の解消、ソーシャルキャピタルの強化のためには、**新たなつながり**が求められている。

潮流（５）ソーシャルキャピタルの低下

自ら一人で居ることを楽しむsolitude（個独）と、自ら望むことなく一人に立たされるloneliness（孤独）は区別する必要があるが、そもそも我が国は世界的に見ても社会的つながり（ソーシャルキャピタル）が弱く、**孤独が常態化**している人が多数いるとの指摘もある。

「孤独」は個人の健康リスクを高め、不寛容な社会をもたらすとの指摘もされており、世界各国では孤独を社会問題として捉えた対策が進められている。

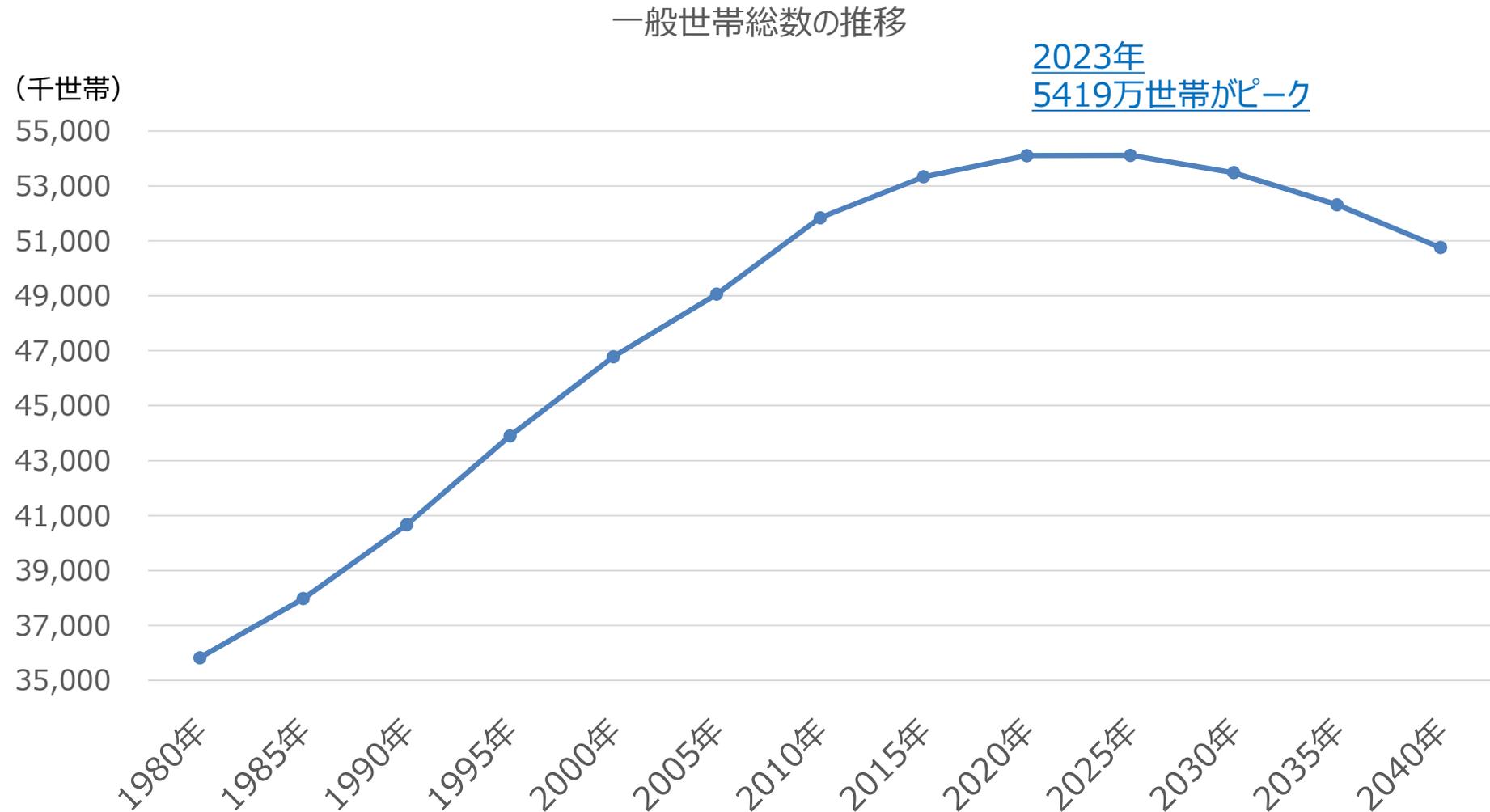
老若男女が生き生きとした持続可能な社会を構築するためには、少子高齢化、単身世帯の増加といった、ともすれば社会のマイナス要因となりかねない傾向を、**健康寿命の延伸、社会的な交流の創出**といったプラス方向に転換する努力が求められている。

潮流（５）ソーシャルキャピタルの低下

一方、東日本大震災後の我が国においては、以前よりもボランティアなど社会的な取組を通じたつながりが高まっている様子も見られる。

元来、都市は人と人との**出合いや交流の場**であり、こうした都市本来の機能を実現するよう努めることが、都市を構成するひとり一人の**人間中心の豊かな生活の実現**をはじめ、**SDGs**（持続可能な開発目標）の達成につながっていく。

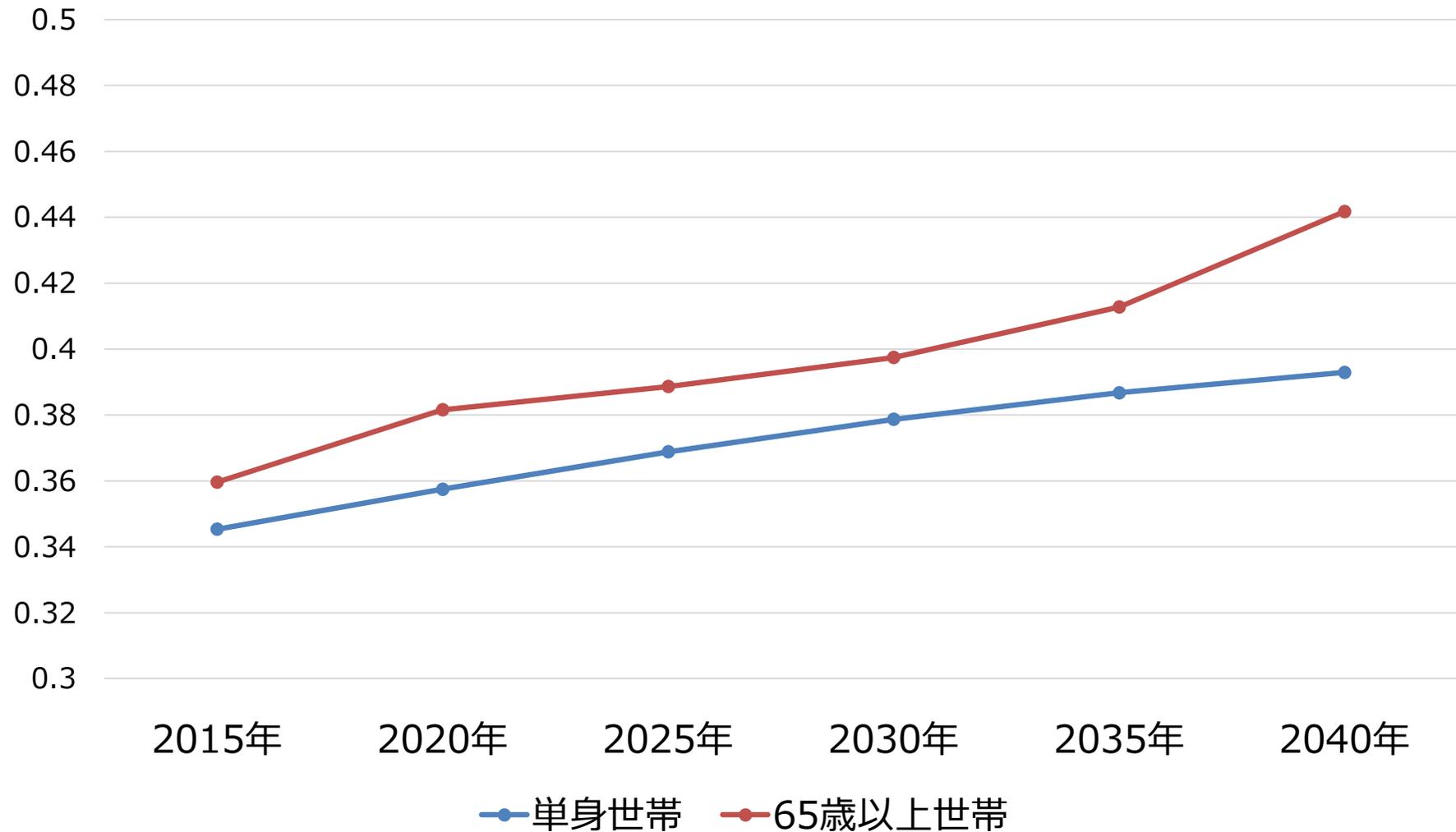
我が国は、人口減少に加え、2023年をピークに**本格的な世帯減少社会**を迎える。



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計 (全国推計)」に基づき国土交通省都市局作成

単身世帯、高齢者世帯の割合が年々増加し、今後4割を超えていく見込み 世帯構成は急速に多様化している。

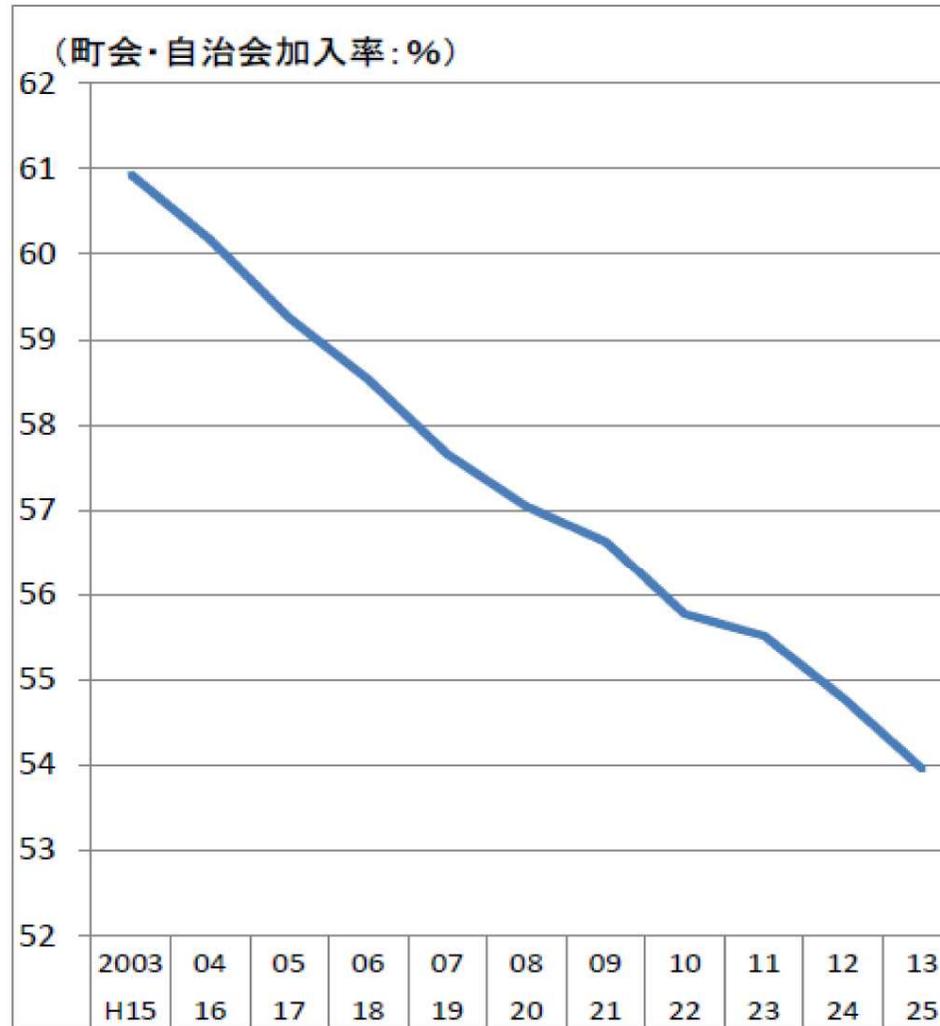
単身世帯・高齢者世帯割合の推移



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」に基づき国土交通省都市局作成

都市部においては、自治会等への参加率低下が進んでいる。

町会・自治会加入率の推移



※事務局による各区市町村ヒアリング結果により集計。
平成15年から平成25年までの10年間の数値が
把握されている33区市町村の平均値を集計

(出典) 東京都「東京の自治のありかた研究会 最終報告 (2015)」

自ら望むこと無く一人の状態になる「孤独」は社会問題として認識されている。

悪い「こどく」といい「こどく」

孤独 Loneliness / Lonely	“個”独 Solitude / Alone
一人の状態、もしくは、誰かと一緒にいる状態	一人の状態
頼りになる人がいない、心の通じ合う人がいない。疎外感、誰からも必要とされていないという主観的感覚	自己実現、内省、充足感、開放感
受動的（自ら望まない状態）	自発的（自ら望む状態）
苦痛、不安、寂しさを覚える	喜び、楽しみを覚える
ネガティブ	ポジティブ
精神的孤立	物理的・精神的 独立・自立
自己嫌悪、絶望	自己肯定、希望

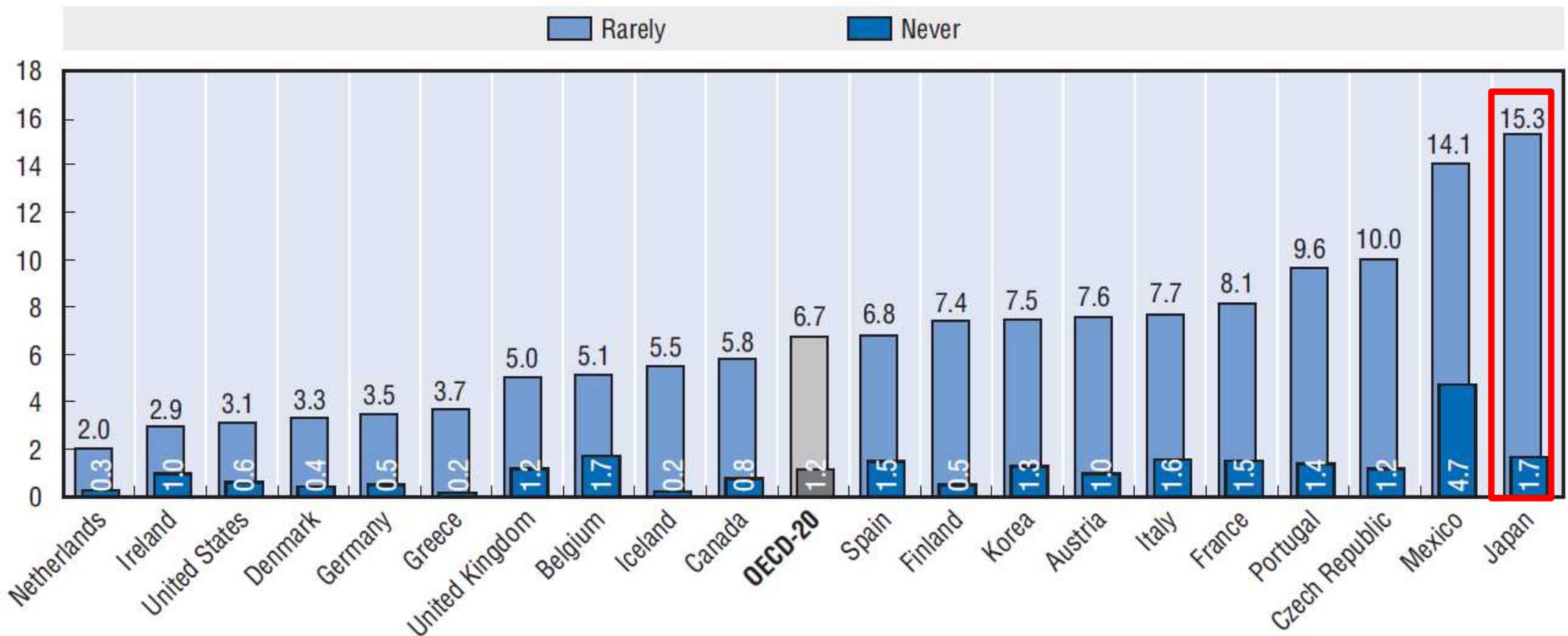


恒常的な“孤独”は健康に甚大な負の影響をもたらす

(出典) 第3回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」 岡本純子ゲスト委員資料

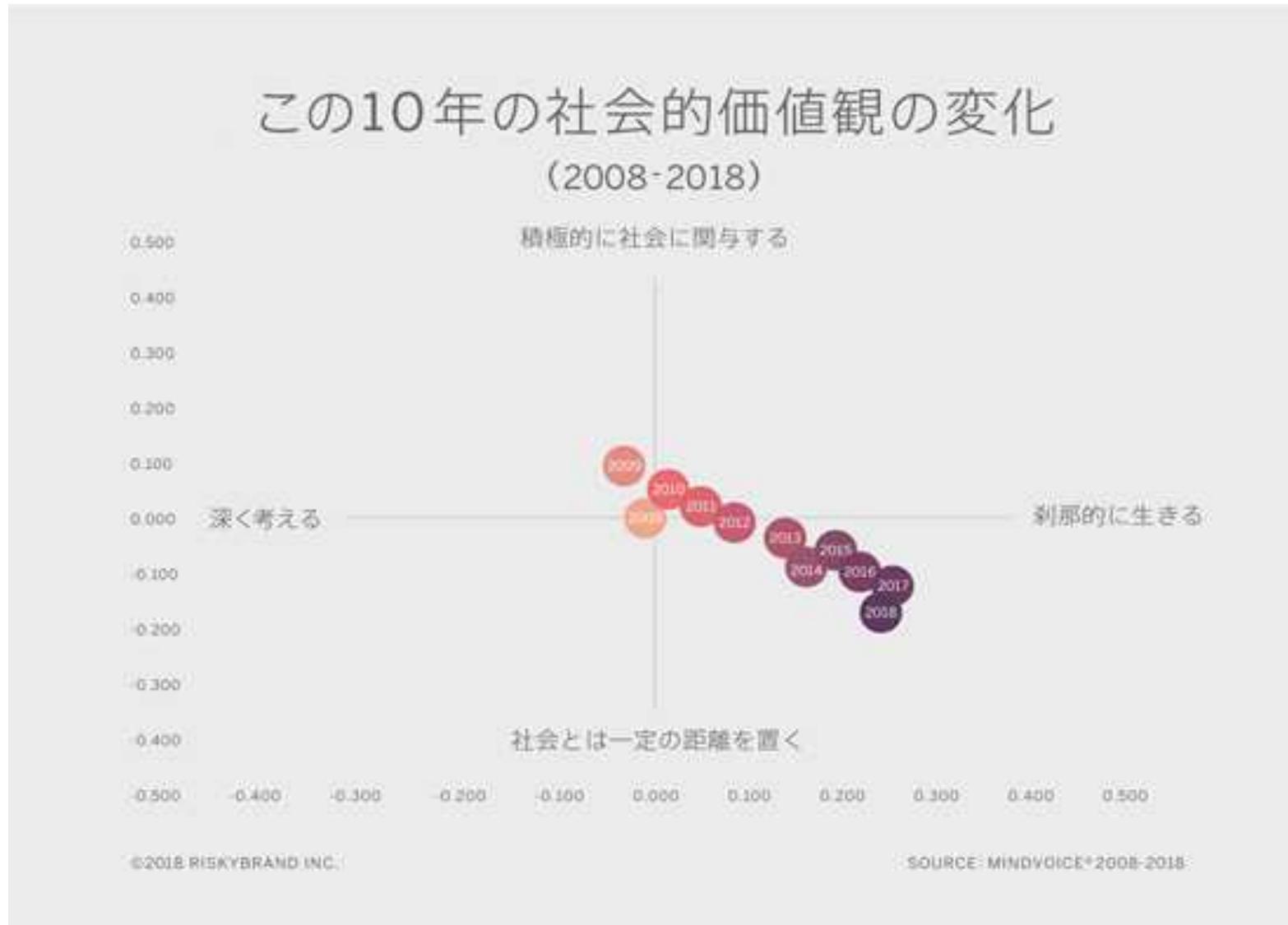
友人などと時間をほとんど過ごさない人の割合は、OECD諸国中日本が1位であり、日本は孤独大国とも言われる。

Percentages, 1999-2002



(出典) 第3回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」 岡本純子ゲスト委員資料

社会と一定の距離を置く冷笑的な価値観が広がっているとの指摘もある



(出典) 第3回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」 岡本純子ゲスト委員資料



SDGs (持続可能な開発目標)

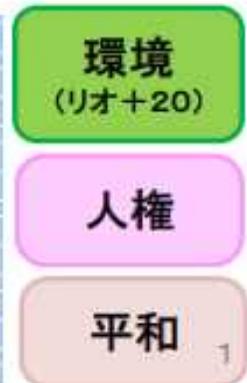
2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている)。特徴は、以下の5つ。



- 普遍性** 先進国を含め、全ての国が行動
- 包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」
- 参画型** 全てのステークホルダーが役割を
- 統合性** 社会・経済・環境に統合的に取り組む
- 透明性** 定期的にフォローアップ

前身:ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)

- 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
 - 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。
(①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯)
- ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
 - 極度の貧困半減(目標①)やHIV・マラリア対策(同⑥)等を達成。
 - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減(同④、⑤)は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ



(出典) 外務省「持続可能な開発目標 (SDGs) について」

潮流（6）「多様性」と「新結合」

人口減少社会における持続的な成長のカギを握る「イノベーション」は、**異なる知の「新結合」**により生まれる。

人口が減少する局面においては、従来行ってきたやり方だけでは均質な者同士の交流に行き詰まり、いずれは新しい組合せの創出に限界を迎える。そのため、より多く、より早くイノベーションの創出を図る要素として、既存の組織や連携の枠組みを超えて、**これまでと異なる主体や多様な人材との交流、未知の組合せ**が必要となる。

都市は持続的にイノベーションを生み出す源泉である。都市に集積したバックグラウンドの異なる多様な主体同士による、オフィシャル・カジュアルな出会い、交流、結合が、持続的なイノベーション創出のエンジンとなる。

イノベーションとは、新たな組合せである

イノベーションの本質： 知と知の組み合わせ

“Development in our sense is
then defined by the carrying out
of **new combinations.**”

(Schumpeter 1934)



(出典) 第4回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」入山章栄ゲスト委員資料に基づき国土交通省都市局作成

(出典) Dラボみんなで実践するマネジメント広場 HP <http://d-lab.management/?p=5431>

潮流（7）「対面」と「偶然の出会い」

グローバル化やIT技術等の進展により、オンラインでの会議、購買、娯楽サービス享受等が可能となり、どこにいても世界中の情報やモノが容易に入手可能となった現代では、もはや物理的な集積は意味を持たないとの指摘がある。

しかし、誰もが容易に入手できるようになったからこそ、それらの情報のみでは独自性を生み出し、差別化することは難しい。「そこでしか得られない情報」「行かなければ会えない人との出会い」「**場を共有**した者の間だけの暗黙知、信頼関係」の価値はむしろ高まっていくとの指摘もある。

このため、必然・偶然を問わず、**多様な人材との出会い、交流**の機会が多い都市に内外の人材は更に集積していく可能性がある。

潮流（7）「対面」と「偶然の出会い」

また、イノベーションを生む「新結合」は、容易に想定される、既視感のある組合せではなく、予定調和なき「**偶然の出会い（セレンディピティ）**」によりもたらされることも少なくない。偶然の出会いは、個人が従来から獲得している資源や能力を超えた「気づき」につながり、人々の視野を広げる。

多様な人材が予定なく対面する可能性を秘めた、**寛容性が高く多様性に満ちた都市**の存在は、イノベーション創出の格好の素地である。

石巻市「橋通り」の歩行者天国では、道路空間で様々なイベントが並行して実施され、新たな出会いのきっかけの場となっている



(出典) 一般社団法人ソトノバHP https://sotonoba.place/hashidori_common

多様なクリエイティブ人材の集積、偶然の出会いが
イノベーションの創出につながっている

事例) DMM.make AKIBA : セレンディピティを生む ものづくりハブ



- 2014年、ハードウェア・スタートアップの支援拠点として開設
- 開発から製品試験まで、約150点・5億円の設備機材
- 起業家、クリエイター、大企業のサテライトオフィスなどが入居(秋葉原のクリエイティブ集積、東大・芸大からのアクセスが強み)

(出典) 第2回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」梅澤高明ゲスト委員資料

潮流（8）「共感」と「育成」

AIやIoT等の新技術が次々と生まれ、ときに破壊的（ディスラプティブ）ともいわれる革新が起こる現在の状況においては、都市のあり方をはじめ、経済・社会について確固たる将来像を描くことは困難になってきている。

一方で、全く未来像の見通しの立たない暗闇の中で、何らの指針なしに人々が**本気の行動や取組**を行うことは期待できない。

このような時代において、人々を行動に駆り立てるのは、確実でなくても「こう変化していきたい」という**ビジョンへの「共感」**や、ひとつひとつの小さな**取組の「達成感」**である。

まちづくりの分野においても、当初に設定した「完成形」を直線的に目指すのではなく、一定のビジョンに基づきつつ、その時々技術や社会情勢を踏まえて**「育成」、「アップデート」**を重ねていく**漸進的な手法**が求められている。

英国の“men’s shed（男の小屋）”や“walking football（歩くサッカー）”は、ある目的・共感の下、自然な交流を生んでいる

イギリスでの取り組み



(出典) 第3回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」岡本純子ゲスト委員資料

ビジョンに共感する人々の集まりが、まちづくりの取組を推進している



(出典) 第3回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」東浦亮典ゲスト委員資料

(Intentionally blank)

潮流（9）「居心地」と「つながり」

「健康とは、身体的、精神的、および**社会的に満たされた状態**である」
（WHO憲章草案）。

まちに集積するそれぞれの人材が均質化せず、「個」として社会的に満たされるためには、互いの違いを認め合う**寛容性**を持ち、自由にくつろげる**居心地の良い場**が必要とされている。

ワークライフバランスが重視される一方、家庭と仕事の境界線がなくなる傾向も見られる中で、プライベート空間である自宅、パブリックな空間である職場に次ぐ、義務感なく集い、非公式に創造的な交流が行われるような**第3の場所（サードプレイス）**が求められている。

潮流（9）「居心地」と「つながり」

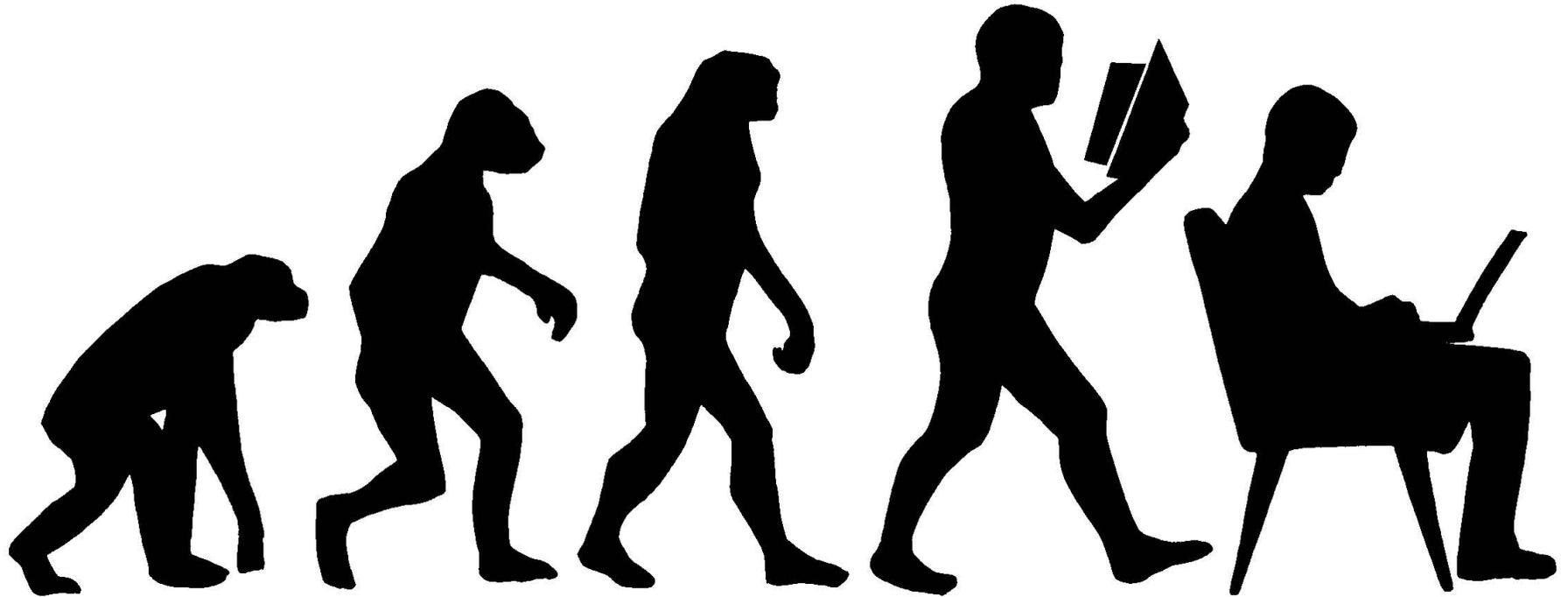
社会的つながり（ソーシャルキャピタル）の醸成を考える上では、合目的的で一定の条件に当てはまる者が義務的に加入するような硬質な組織だけではなく、ビジョンを共有する者同士がその達成のために一時的・柔軟に連携するような**「ゆるやかなつながり」**が重要性を増していく。

既存の硬質な組織に加入してこなかった者であっても、こうしたゆるやかなつながりであれば、抵抗感なく形成しやすい。多様性と匿名性を特徴とする都市においてこそ、このようなつながりを生み出していく必要がある。

社会的つながりは人の健康を実現する重要な要素である

人は「社会的動物」であり、

人は支え合い、助け合い、共に生きるもの



一人で生きていくものではない

老若男女の様々な活動が互いに共存する、
居心地の良いコミュニティが実現している

喫茶ランドリー



(出典) 第3回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」田中元子ゲスト委員資料

潮流（10）「新技術」と「新制度」

生産年齢人口が減少する中、生産性の向上を果たすためには、これまでのコンピュータやロボットの活用と同様に、AI、IoT等の新技術やデータの活用を進める必要がある。

都市分野においても、人流、交通流、地形など、都市を巡る多様なデータの活用による課題の可視化、シミュレータを利用したシステムの導入評価、自動運転サービス等、**様々な新技術・データの利活用**が検討されている。

優れた新技術の開発スピードを早め、広く普及させるためには、平均的、基礎的な価値の実現に加え、**脱均質、個性的、予測不能なチャレンジを後押しできる新制度**も併せて構築していく必要がある。

潮流（10）「新技術」と「新制度」

活発化、多様化する都市活動を受け止めるためには、様々な新技術や新制度を活用し、都市のあり方そのものを大きく転換させることが必要になってくる。

現在進行中のスマートシティの取組をはじめ、**社会課題（ニーズ）の解決**のために**新技術（シーズ）を的確に活用**し、まちに集まる一人一人の**人間中心の豊かな生活の実現**に寄与する、Society 5.0時代のまちづくりが求められている。

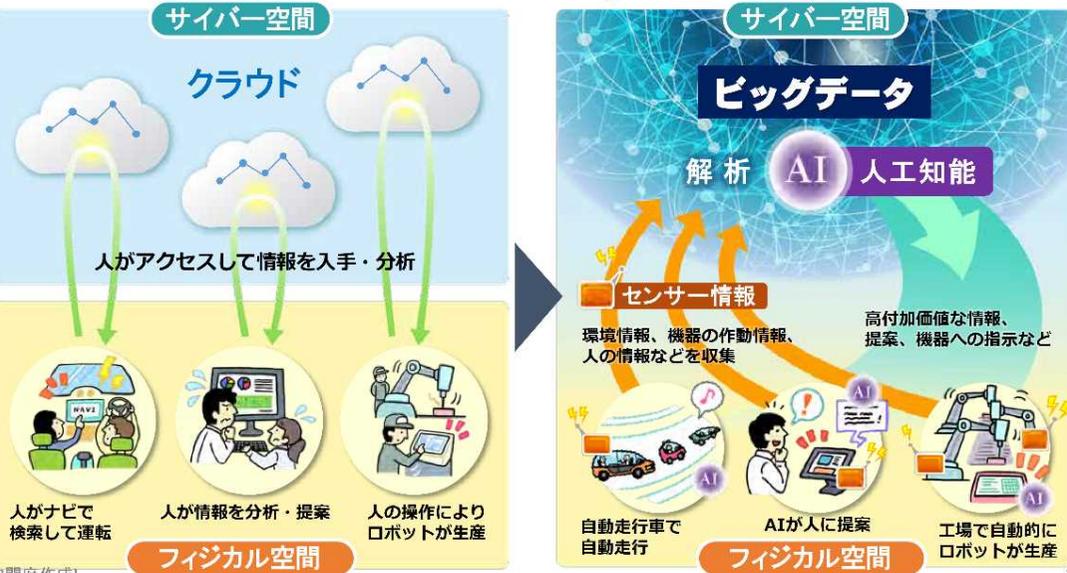
サイバー空間のデータが、フィジカル空間のニーズに応じて得られる 新たな社会「Society 5.0」が実現しつつある

サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合

フィジカル（現実）空間から**センサー**と**IoT**を通じてあらゆる情報が集積（**ビッグデータ**）
人工知能（AI）がビッグデータを解析し、高付加価値を**現実空間にフィードバック**

これまでの情報社会(4.0)

Society 5.0



経済発展と社会的課題の解決を両立する「Society 5.0」へ

経済発展

- エネルギーの需要増加
- 食料の需要増加
- 寿命延伸、高齢化
- 国際的な競争の激化
- 富の集中や地域間の不平等

社会的課題の解決

- 温室効果ガス（GHG）排出削減
- 食料の増産やロスの削減
- 高齢化に伴う社会コストの抑制
- 持続可能な産業化の推進
- 富の再配分や地域間の格差是正

IoT、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータ等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、格差なく、多様なニーズにきめ細かく対応したモノやサービスを提供

経済発展と社会的課題の解決を両立

（出典）内閣府 「Society 5.0『科学技術イノベーションが拓く新たな社会』説明資料」

